

平成 29 年 3 月実施

『全学卒業生組織による「在学生支援・校友育成事業」実施状況調査』

集計報告

平成 29 年 9 月

2015～2017 年度 科学研究費助成事業 基盤研究 (C) (課題番号: 15K04340)

「大学の持続的発展に資する校友(大学・学生・卒業生)事業の意義と可能性に関する研究」

岩手大学 大川 一毅

茨城大学 畷田 敏行

鳥取大学 大野 賢一

目次

はじめに.....	1
1. 調査方法と内容.....	2
2. 回答状況.....	3
3. 集計結果.....	5
3. 1 設問「Ⅰ 貴会について」.....	5
3. 2 設問「Ⅱ 在学生支援に関わる事業の実施状況について」.....	6
(A) 教育・研究活動の支援.....	6
(B) 講演会・研究会の開催（主催、共催、協賛、後援等を含む）.....	10
(C) 寄付・財政援助事業.....	13
(D) 会員相互の親睦・懇親・交流事業（主催、共催、協賛、後援等を含む）.....	17
(E) 大学・母校への支援・後援事業（主催、共催、協賛、後援等を含む）.....	21
在学生支援事業の特色・傾向.....	25
3. 3 設問「Ⅲ 校友育成事業について」.....	30
3. 4 設問「Ⅳ 大学や貴会の発展に向けた取組について」.....	40
○アンケート調査にご協力いただきました全学卒業生組織（同窓会・校友会等）さま（250 団体）.....	43

■研究メンバー

大川 一毅 研究代表者（研究の全体総括）
（岩手大学 評価室 教授）

畠田 敏行 研究分担者（調査企画、及び調査結果の分析）
（茨城大学 全学教育機構 准教授）

大野 賢一 研究分担者（調査設計、及び収集情報の整理・分析）
（鳥取大学 大学評価室 准教授）

はじめに

平成 29 年 9 月

岩手大学 教授（評価室）

研究代表者 大川 一 毅

『全学卒業生組織による「在学学生支援・校友育成事業」実施状況調査』アンケートにご協力いただき、心より御礼申し上げます。おかげさまをもちまして、全国大学・学園の全学卒業生団体等 250 組織さまからご回答をいただきました。このたび回答集計がまとまりましたのでご報告いたします。

大学を取り巻く状況が大きく変化するなか、大学の「総合力」を高める上では、大学と卒業生との関係を強化することが重要だと考え、大学と卒業生との相互関係に着目し、私どもは、「大学における卒業生サービス」の意義や可能性をめぐる実証的研究を進めました（平成 23 年～平成 25 年：科学研究費助成事業：基盤研究（C）「地方大学における卒業生サービスの意義と可能性に関する実証的研究」）。

この研究から「在学時に卒業生との交流があったり、支援を受けたりした経験のある学生は、自らも卒業後に母校や後輩への支援意欲を持ち、その結果として大学の発展を支える存在（校友）となる可能性が高い」という知見を得ました。また、卒業生が卒業後に大学へ求める「サービス」として、「在学学生との交流機会」や「可能な範囲で出来る母校・在学学生支援の場・機会の設定」があることも把握しました。これらのことをふまえ、私たちは、卒業生や卒業生組織による母校・在学学生支援を「サービスの提供と受益の関係」だけで捉えず、卒業生・在学学生それぞれが母校への愛着や帰属感を醸成し、校友意識を高めていく互恵的的事业につながる可能性を持つと考えるようになりました。しかし、卒業生組織が、実際に母校・在学学生支援にどう関わっているのか。母校・在学学生支援事業がどう行われ、いかなる傾向や特色ある取組が行われているのか。また、そこにはどのような課題が存在しているのか。これらについて、大学や同窓会個々の先進的な事例紹介はあっても、総体的状況が理解できるような全国規模の調査や報告はありませんでした。こうしたことから、今回の『全学卒業生組織による「在学学生支援・校友育成事業」実施状況調査』に至りました。

今回、全国 250 の全学卒業生組織さまよりご協力いただきました本アンケート調査の回答から、様々な在学学生支援や校友育成事業が展開・企画されていることが確認できました。しかしその一方で、全学卒業生組織による母校・在学学生支援には多くの課題があることも明らかとなりました。本報告書では、回答の集計結果に合わせ、可能な範囲で、自由記述も掲載させていただきました。

全学卒業生組織による母校・在学学生支援や校友育成事業には、大学の歴史や特性といった固有の事情を背景にして、各組織それぞれのお考えとやりかたがあるかと存じます。本調査結果につきましては、ご随意にご活用いただき、各位ご発展の一助となれば幸甚です。

本調査結果のお問い合わせや、これまでの研究成果の報告などは、お気兼ねなくご連絡願います。また、本調査に関して今後の分析視点や事例研究調査などのご意見ご要望等ございましたら、ご教示よろしくお願いいたします。

1. 調査方法と内容

本アンケートは、卒業生すべてを会員有資格者とする「全学卒業生組織（以下、「全学同窓会」または「同窓会」と記す）」を対象に実施状況調査を行いました。2016年度における全国の国公立 771 大学にあって、全学卒業生組織として存在確認できた 643 団体（同窓会・校友会等）に、「調査依頼書」と「アンケート票」を 2017 年 2 月 10 日に発送し、3 月 17 日までに郵送または電子メールでの回答を依頼しました。また、アンケート票については、電子ファイルとして Web サイトからダウンロードできるように設定しました。

なお、本調査では「在学生支援」及び「校友育成事業」を以下のように定義し、回答を依頼しました。

- **在学生支援**：母校の大学・大学院に在籍する学生の便宜のため、貴会が組織的に行う「奨学支援、学修支援、就職・キャリア形成支援、生活支援、課外活動支援」などの各種支援事業
- **校友育成事業**：卒業生や在学生を対象とし、母校への愛着や所属意識の涵養を図る取組など、母校構成員としての自覚や意識の向上を図る企画や事業

「在学生支援」の設問では、下記の 5 区分領域を設定し、各区分において具体的項目を提示して該当する回答を複数選択できる「多肢選択法」を採用しました。また、補足説明や独自の取組を記載いただくため、5 区分全てに「自由記述欄」を設けました。

- (A) 教育・研究活動の支援
- (B) 講演会・研究会の開催
- (C) 寄付・財政援助事業
- (D) 会員相互の親睦・懇親・交流事業
- (E) 大学・母校への支援・後援事業

「校友育成事業」の設問では、具体的な取組や特色ある取組だけでなく、「母校への愛着や後援意欲を有する校友育成」に資する支援事業があれば記載いただけるよう「自由記述欄」を設けました。

なお、本調査実施にあたり、アンケートの回答内容について、以下のいずれか意向を確認しています。

「1. 貴会の取組や自由記述など、大学名・貴会名を含め紹介してよい」

「2. 貴会の取組や自由記述など、大学名・貴会名を匿名にするかぎりにおいて紹介してよい」

「3. 大学名・貴会名が特定できない集計データとしてのみ、利用してよい」

自由記述回答の掲載にあたっては、「1. 貴会の取組や自由記述など、大学名・貴会名を含め紹介してよい」、もしくは「2. 貴会の取組や自由記述など、大学名・貴会名を匿名にするかぎりにおいて紹介してよい」と回答があった場合に限り、いずれも匿名で掲載し、大学・組織名が判別できないよう配慮しました。ただし、「1. 大学名・貴会名を含め紹介してよい」の意向だった場合は、もし自由記述文中に大学や卒業生組織名が判別できる記載があっても、回答文のまま掲載いたしました。

本調査は学術研究目的で実施しており、調査結果は学会等での学術報告、新聞取材等による報道報告、調査協力同窓会・校友会さまへの報告に利用します。これら以外の目的で利用することはありません。

2. 回答状況

今回のアンケート調査の回答総数は 250 件であり、全体の回収率は 38.9%であった。回答の回収にあたり、締め切りが近づいていることのご案内（リマインド）は行っていない。また、全学同窓会名が未記載、又は全学同窓会が未設置のものについては対象外とした（2件）。

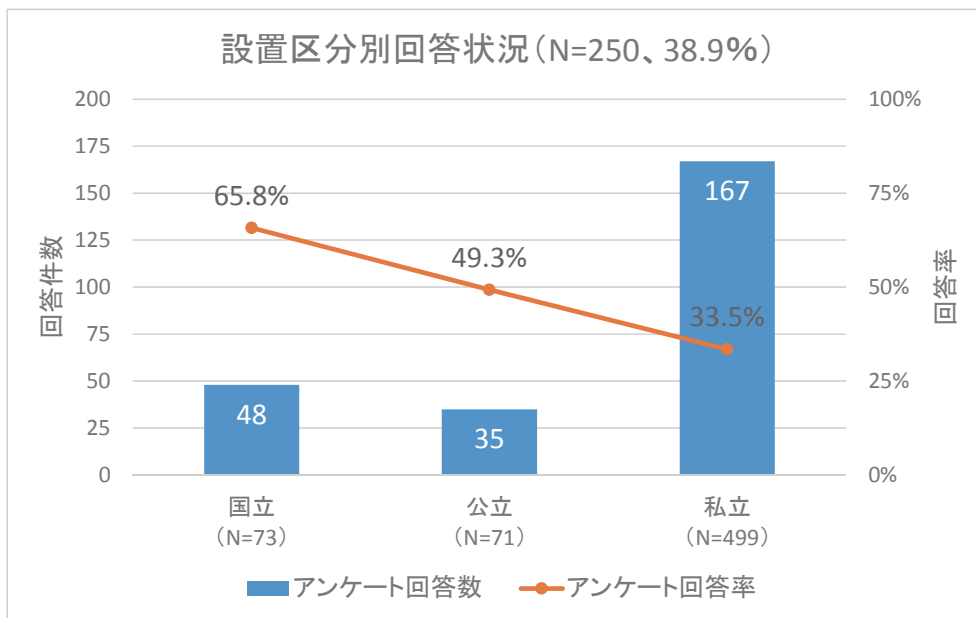


図1 アンケート回答数及び回答率（2017年5月15日現在）

卒業生組織の母体となる大学の設置区別内訳では、回答件数（総回答件数中の割合：%）については、私立大学同窓会が 167 件(66.8%)、国立大学同窓会が 48 件(19.2%)、公立大学同窓会が 35 件(14.0%)であり、また回答率については、国立大学同窓会が 65.8%と最も高く、公立大学同窓会が 49.3%、私立大学同窓会が 33.5%であった。

本報告書の集計結果では、全体的な回答状況を示すとともに、必要に応じて、分析の観点として、全学同窓会を①母体大学等の設置区分、②母体大学等の設置年、③大学規模（収容定員）、④大学規模（学部数）、⑤同系大学の5つに分類し、それぞれの回答傾向も示すこととする。各区分における回答件数は、以下のとおりである。

表 1-1 母体大学等の設置区分

区分	設置区分	回答件数
国立	国立大学の全学同窓会	48
公立	公立大学の全学同窓会	35
私立	私立大学・学園の全学同窓会	167

表 1-2 母体大学等の設置年※1

区分	卒業生組織の主な母体となる大学設置時期の特徴	回答件数
1947 年以前	主な母体となる大学（またはその前身となる学校）が、第 2 次大戦以前（「旧制学校」時代）に設置	20
1948 年～1962 年	主な母体大学等が、新制大学制度発足以降、1962 年までの間に設置	87
1963 年～1967 年	主な母体となる大学等が、高度経済成長の主たる期間中の「大学増設期」に設置	28
1968 年～1987 年	主な母体となる大学が、1970 年代から 1980 年代にかけて設置	35
1988 年～2010 年	主な母体となる大学が、1990 年代以降に設置	80

※1：母体大学等の設置年については、便宜上、上記の時期で区分した。

表 1-3 大学規模（収容定員）※2

区分	収容定員	回答件数
大規模	8,000 名以上	28
中規模	8,000 未満～4,000 名以上	56
小規模	4,000 名未満	166

※2：収容定員の分類については、以下の URL に記載された「各大学の学部収容定員（2015 年 5 月 1 日時点）」を利用させていただいた。http://tanuki-no-suji.at.webry.info/201602/article_7.html（2017 年 6 月 11 日現在）

表 1-4 大学規模（学部数）※3

区分	学部数	回答件数
A	8 学部以上	30
B	5～7 学部	36
C	2～4 学部	99
D	単科大学	85

※3：学部数の分類については、学術情報基盤実態調査（文部科学省）を参考に作成。

表 1-5 同系大学※4

区分	大学名称に含まれる主なキーワード	回答件数
女子大学	女子、女学院、女学園	26
医療系大学	医療、保健、看護、リハビリテーション	26
工業系大学	工業、工科、工芸、農工、理科、電気通信、技術科学、科学技術	19
医科系大学	医科、歯科、薬科	11
芸術系大学	芸術、音楽、美術、造形	9
教育大学	教育、学芸	6
外国語大学	外国語	3
体育大学	体育	3

※4：同系大学の分類については、便宜的に大学名称に含まれるキーワードをもとに作成。

3. 集計結果

3. 1 設問「I 貴会について」

貴会と大学との関係について、もっとも当てはまるものを1つお選びください。

1) 大学とは別個の法人組織 2) 法人組織ではないが大学とは別組織 3) 大学組織の一部 4) その他

■全学同窓会と大学との関係に対する主な回答結果

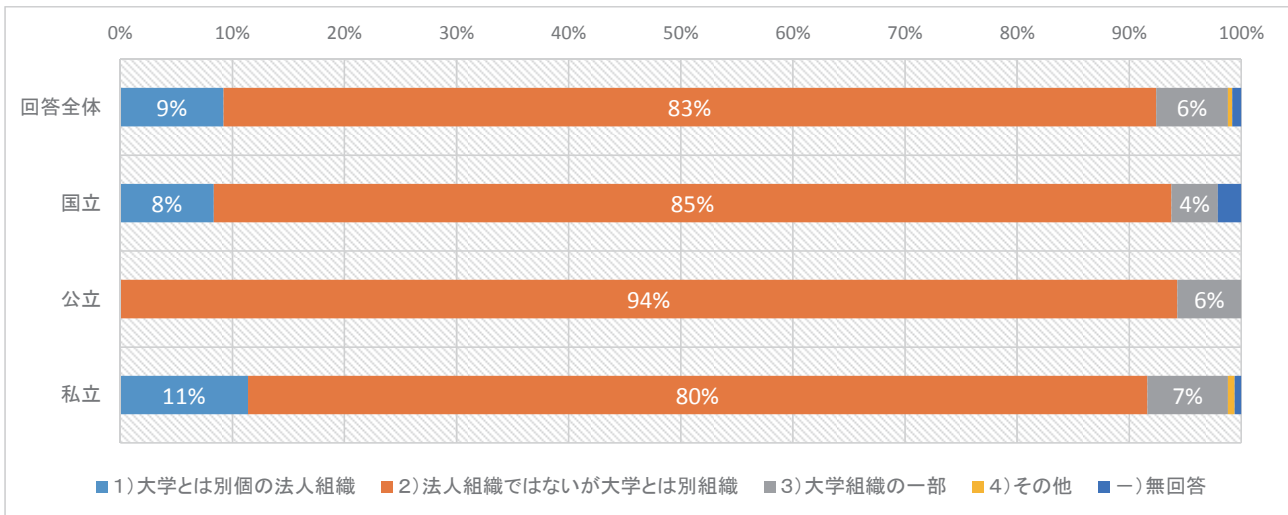


図2 母体大学等の設置区分

■まとめ（知見・考察）

- 全体的な集計結果では、全学同窓会と大学との関係では、「2) 法人組織ではないが大学とは別組織」が8割強を占めており、次いで「1) 大学とは別個の法人組織」、「3) 大学組織の一部」の順であった。
- 国立及び私立大学の同窓会では「1) 大学とは別個の法人組織」が1割前後であり、公立大学の同窓会では回答が無かったが、設置区分の違いはみられなかった。
- 母体大学等が設置された年が古い同窓会ほど、「1) 大学とは別個の法人組織」を多く設置している傾向がみられた。
- 女子大学や工業系大学の同窓会では「1) 大学とは別個の法人組織」、芸術系大学や教育大学では「3) 大学組織の一部」が多く設置されている傾向がみられた。

3. 2 設問「Ⅱ 在学生支援に関わる事業の実施状況について」

貴会において行われている事業のうち、以下に示す在学生支援の実施状況について教えてください。
 該当する取組を実施している場合には、左側の□に✓等を入れてください（複数選択可）。

(A) 教育・研究活動の支援

- キャリア教育科目への講師派遣 自校教育科目への講師派遣 学会等参加費の援助
 海外渡航費の援助 成績優秀者への表彰 資格取得支援 ボランティア活動支援
 卒業生が所属する企業へのインターンシップ斡旋 課外活動における遠征等費用の援助
 学生相談サポートの提供 図書の寄贈 留学生への宿舎等の提供
 その他（上記以外の取組、または選択回答についての補足説明等があれば下記にご記入ください）

■ 主な回答結果

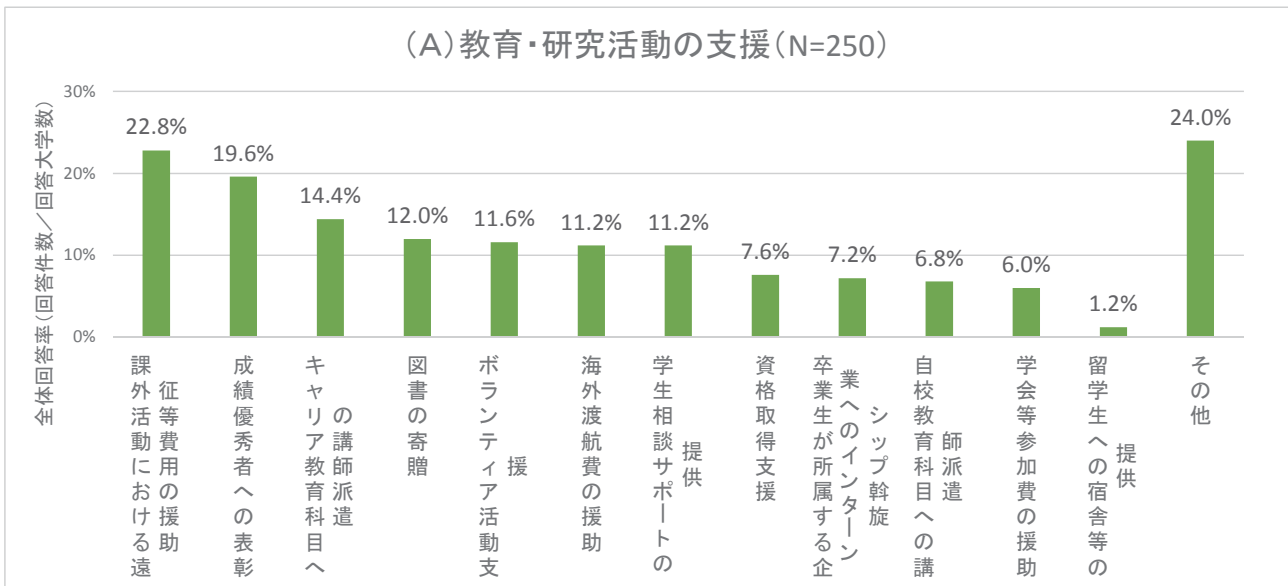


図 3-A 教育・研究活動の支援【全体】

【解説】

- 「教育・研究活動の支援」の回答は、全項目で回答率 25%を下回った。
- 回答率が高かった上位 3 項目は、「課外活動における遠征等費用の援助」、「成績優秀者への表彰」、「キャリア教育科目への講師派遣」の順であった。
- 回答率下位 3 項目は、「留学生への宿舎等の提供」、「学会等参加費の援助」、「自校教育科目への講師派遣」の順であった。

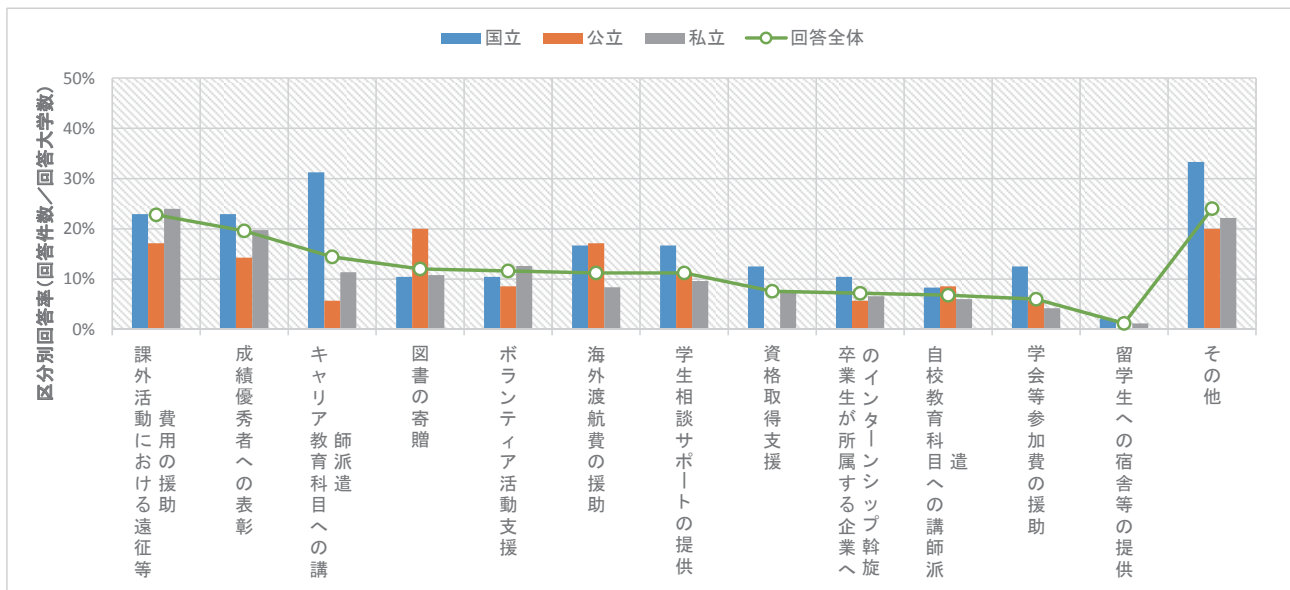


図 3-A-1 教育・研究活動の支援【母体大学等の設置区分】

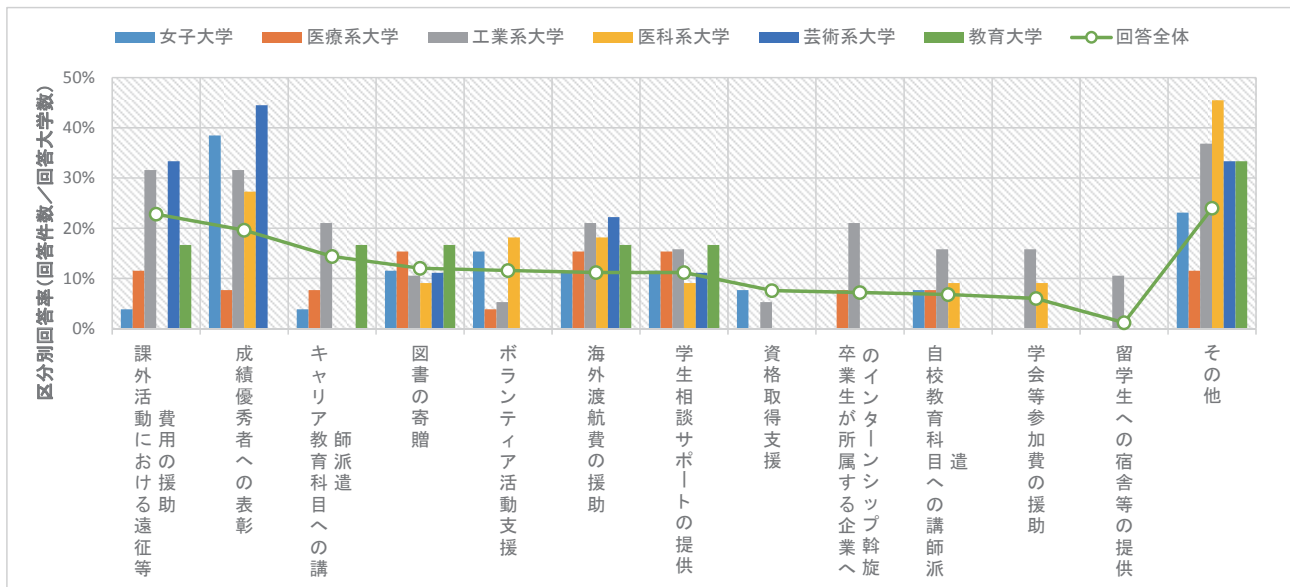


図 3-A-2 教育・研究活動の支援【同系大学】

【解説】

- 国立大学同窓会では「キャリア教育科目への講師派遣」の回答率が 31.3%と高く、全体平均より 17 ポイント大きかった。公立大学同窓会では「図書への寄贈」、私立大学同窓会では「課外活動における遠征等費用の援助」の回答率が高かった。
- 工業系大学同窓会では「課外活動における遠征等費用の援助」及び「成績優秀者への表彰」の回答率がともに 30%程度と高く、「卒業生が所属する企業へのインターンシップ斡旋」が全体平均より 14 ポイント大きかった。芸術系大学同窓会では「成績優秀者への表彰」(44.4%)及び「課外活動における遠征等費用の援助」(33.3%)の回答率が高く、「成績優秀者への表彰」が全体平均より 25 ポイント大きかった。女子大学同窓会では「成績優秀者への表彰」の回答率が 38.5%と高く、全体平均より 19 ポイント大きかった。

選択回答項目に関する「補足説明」、及び「その他」回答に関する自由記述を紹介する。

【選択回答に関する補足説明】

- 「卒業生が所属する企業へのインターンシップ斡旋」については、一部の支部が実施（私大同窓会）
- 就職支援課と連携し、同窓会が一部キャリア教育科目の授業を受け持っている（国大同窓会）
- 「学会等参加費の援助、海外渡航費の援助」は、グローバル人材育成用の支援を大学にし、大学がそのお金を使って実施している。「キャリア教育科目への講師派遣」、「自校教育科目への講師派遣」、「卒業生が所属する企業へのインターンシップ斡旋」、「学生相談サポートの提供」は、協力要請があったときに随時行っている（国大同窓会・工業系）
- 「成績優秀者への表彰」は、大学が選考した成績優秀者に、副賞として校友会から記念品を贈呈している（公立大同窓会）
- 大学奨学金への出資（私大同窓会・工業系）

【「その他」回答に関する自由記述】

- 部活動への支援、模擬面接会、就職相談、留学モチベーションアップ活動支援、グローバル人材育成講座の提案・支援（国大同窓会）
- 「キャリア形成論」（全学教養科目）実施の諸費用を支援（国大同窓会）
- 学生が将来に向けての展望を持ったり、不安に思うことを相談したりできる機会として若手の先輩教員と学生が集まって話す「トークショップ」を実施（国大同窓会・教育系）
- 平成28年度より「就職試験対策」講座開講（国大同窓会・教育系）
- 「国の登録有形文化財」の同窓会会館を建築学・生活文化学・日本文学の講義・実習室として提供（国大同窓会）
- 寄付講義の提供、同窓会長特別表彰、プロジェクト奨励賞（公立大同窓会）
- 全国の各県毎に同窓会の支部があり、教員採用試験の二次対策会を行っている（公立大同窓会）
- 就活サポート講座の開催（私大同窓会・女子大学）
- 学業成績優秀者のほかにスポーツ優秀者、また母校の名声を高揚させ、学生の範となる者を表彰している。このほか大学の教育プログラムへ支援（私大同窓会）
- 交換留学生受入補助（私大同窓会・工業系）
- 大学講義への講師（卒業生）の紹介（私大同窓会）
- 国内外から客員教員を招聘するための基金へ毎年寄付を行っている（私大同窓会・女子大学）
- キャリア教育科目への講師（マナー講座）派遣（私大同窓会・女子大学）
- 卒業生の優秀者に向けた表彰、留学生の日本文化体験活動の補助、資格取得支援（資格講座受講の際の補助）（私大同窓会）
- 医師国家試験支援（私大同窓会・医歯薬系）
- 国家試験前の激励会援助（私大同窓会・医歯薬系）
- 同窓会での義援金及びバザー収益を、東日本大震災支援ボランティアを行っている大学生の活動資金として提供（私大同窓会・女子大学）
- キャリア教育科目への講師派遣については、講師の紹介。課外活動における遠征等費用の援助については、各地支部が部活動合宿所に応援差し入れ（私立学園同窓会）
- 国家試験不合格者に対しての各種サポート（私大同窓会・医歯薬系）

- 自校教育科目の設置を来年度に向け検討中（私大同窓会・工業系）
- 新入生歓迎会。2ヶ月に1回卒業生を講師としてサロンの学生OBとの交流会（20～30人参加）。成績優秀者への表彰、奨学金（国大同窓会）
- 課外活動における環境整備、物品の援助、大学附属図書館への書籍整備と充実（国大同窓会）
- グローバル人材育成支援、就職活動支援（国大同窓会）
- 学生の主体的な取組（特色ある活動、地域貢献等）に対し、奨励金を支出（公立大同窓会）
- 学食でのメニュー支援（野菜の一品プレゼント）。年1回同窓会会報誌を発行し、教職員・在学生にも配布（公立大同窓会）
- 被災学生に対する支援（私大同窓会）
- 海外派遣助成として大学より推薦された10名程度の大学院生（同窓会員に限る）及びこれに準ずる教員に助成金を交付している（私大同窓会・医歯薬系）
- 奨学生（4年次卒業制作対象）、海外スタディツアー推薦、芸術祭への支援、奨学生卒制優秀者展覧会、Web-upサービス等（私大同窓会・芸術系）
- 課外実習先・ボランティア・見学先の紹介・ゲスト講師派遣（同窓会作成のゲスト講師候補者リストから講師を派遣する場合、旅費交通費用の助成を行う事業を実施予定）（私大同窓会・医療福祉系）
- 奨学金の支給、クラブの全国大会出場に伴う援助（私大同窓会）
- 「学生振興支援基金規程」を設け、① 学業成績優秀者の表彰、② スポーツ等課外活動功績者の表彰、③ 奨学金の給付、④ 学生の学術・文化・スポーツ振興に資する活動への支援等実施（私大同窓会）
- 海外留学中の学生を現地海外支部が食事会に招待し、交流会を実施（私大同窓会・外国語大学系）

■まとめ（知見・考察）

- 「教育・研究活動の支援」において、回答率上位3項目は「課外活動における遠征等費用の援助」、「成績優秀者への表彰」及び「キャリア教育科目への講師派遣」であった。
- 「課外活動における遠征等費用の援助」について、紙面の関係でグラフ提示は割愛しているが、母体大学等が「大学増設期」に設置された年（1963年～1987年）の同窓会では4割弱、大学規模が中規模以上（収容定員4,000名以上）の同窓会でも実施されており、芸術系大学及び工業系大学の同窓会では3割程度実施されていた。
- 「成績優秀者への表彰」について、大学等の設置年が古い同窓会や中規模以上の同窓会でも実施されており、女子大学及び芸術系大学の同窓会では4割程度実施されていた。また、グラフは割愛したが、大学等の設置年が古い同窓会や中規模以上の同窓会でも実施されている。
- 「キャリア教育科目への講師派遣」については国立大学同窓会で3割程度実施されており、「課外活動における遠征等費用の援助」や「成績優秀者への表彰」については国立及び私立大学の同窓会で比較的多く実施されていた。
- 「その他」回答について、例えば工業系大学同窓会では学会参加費援助やインターンシップ紹介、医歯薬系大学同窓会では国家試験受験支援、芸術系大学同窓会では作品発表会等の支援や優秀作品の表彰、教育系大学同窓会では教員採用試験への支援や現職教員（同窓会員）と在学生との交流などが行われている。
- 教育・研究活動の支援項目は回答率が低く、総じて同窓会組織として実施するのが「困難」な領域であると考えられる。しかし、各大学と同窓会が協力・連携を進めながら、今後の実施可能性を検討する余地のある領域ともいえる。

(B) 講演会・研究会の開催（主催、共催、協賛、後援等を含む）

- 就職活動体験談等の報告会
 卒業生による業界説明会
 卒業生が所属する企業による就職説明会
 大学・学園の創設者や関係者に関わる企画展
 その他（上記以外の取組、または選択回答についての補足説明等があれば下記にご記入ください）

■ 主な回答結果

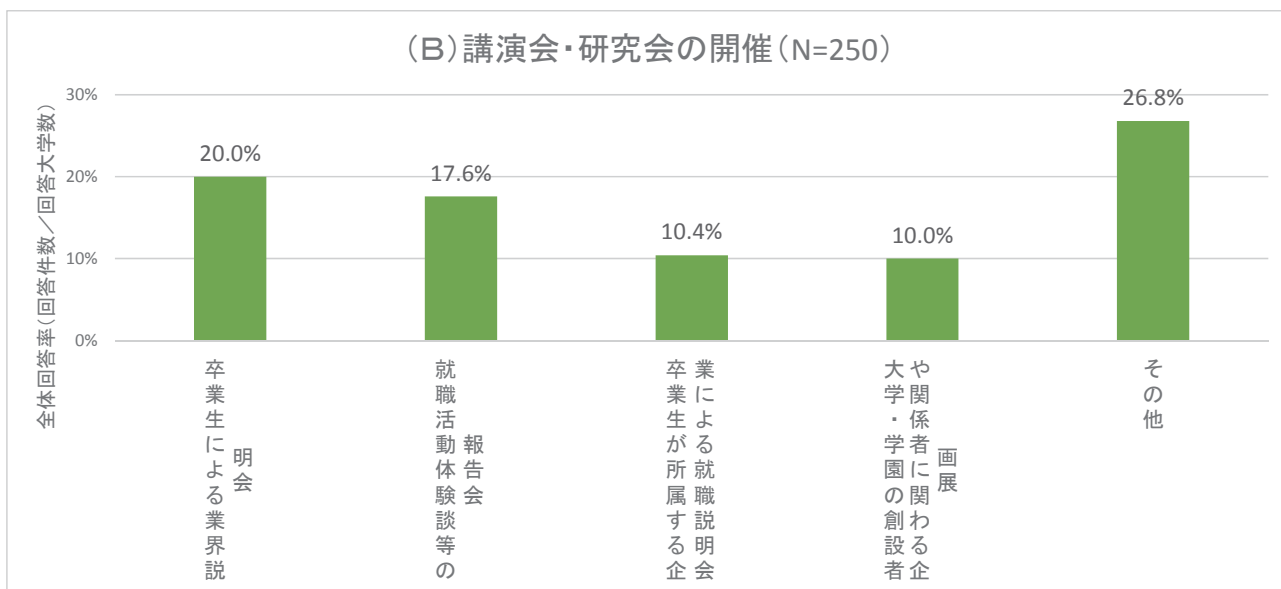


図 3-B 講演会・研究会の開催【全体】

【解説】

- 「講演会・研究会の開催」の回答は、全項目で回答率 25% を下回った（その他は除く）。
- 回答率が高かった上位 3 項目は、「卒業生による業界説明会」、「就職活動体験談等の報告会」、「卒業生が所属する企業による就職説明会」の順であった。

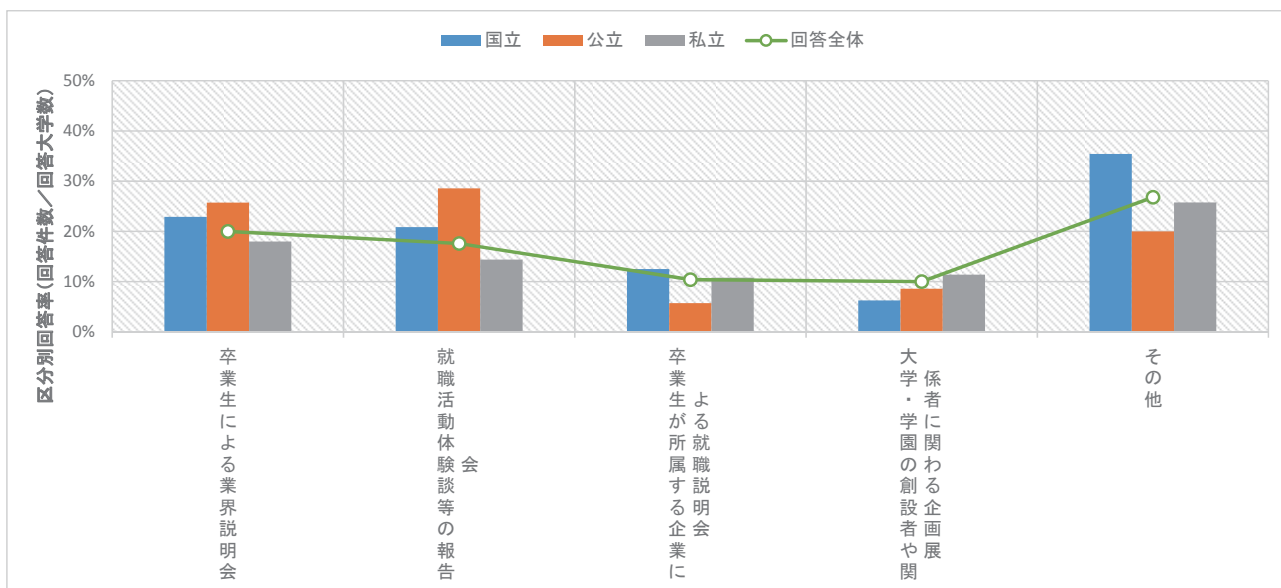


図 3-B-1 講演会・研究会の開催【母体大学等の設置区分】

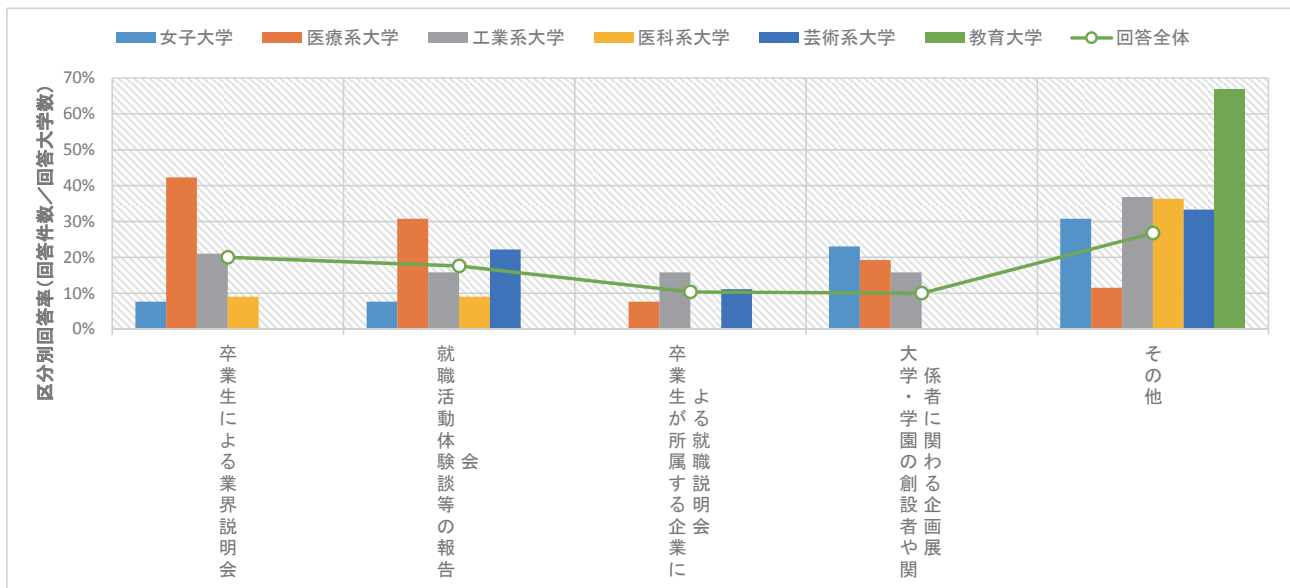


図 3-B-3 講演会・研究会の開催【同系大学】

【解説】

- 公立大学同窓会では「就職活動体験談等の報告会」、国立及び私立大学同窓会では「卒業生による業界説明会」の回答率が高かった。
- 医療系大学の同窓会では「卒業生による業界説明会」（42.3%）及び「就職活動体験談等の報告会」（30.8%）の回答率が高く、「卒業生による業界説明会」が全体平均より 22 ポイント及び「就職活動体験談等の報告会」が 13 ポイント大きかった。女子大学同窓会では「大学・学園の創設者や関係者に関する企画展」の回答率が高く、全体平均より 13 ポイント大きかった。芸術系大学同窓会では「就職活動体験談等の報告会」の回答率が高かったが、教育大学同窓会では選択肢に対する回答はなかった。

選択回答項目に関する「補足説明」、及び「その他」回答に関する自由記述を紹介する。

【選択回答に関する補足説明】

- 「就職活動体験談等の報告会」と「卒業生による業界説明会」は、「卒業生との懇談会」として、1 つの事業として実施（公立大同窓会）
- Uターン就職相談会、職場見学会・施設見学会等の実施。同窓会キャリア・アドバイザーによる個別就職相談の実施（私大同窓会・医療福祉系）

【「その他」回答に関する自由記述】

- 卒業生の「人財バンク登録事業」を活用した先輩卒業生による講演会、キャリア相談等を開催（国大同窓会）
- 外部の講師による在学生向け講演会（国大同窓会）
- 卒業生の就職している企業の工場等の見学・説明会（公立大同窓会）
- OB・OG 訪問の中継ぎ（公立大同窓会）
- 合同企業研究会・就職セミナー（私大同窓会）

- 大学が行っている事業に協力している。また、年2回校友会寄付講座を開催（私大同窓会）
- 卒業生の活躍を紹介する意味で、当会主催で講演会、演奏会等を行います（私大同窓会・女子大学）
- 在学生へ対する国家試験対策講義の開催（私大同窓会・医療福祉系）
- 卒業生の就職相談会、起業・経営者の在学生向け交流会（私大同窓会）
- リカレント教育に学部生が参加できる（私大同窓会）
- 講演会・セミナー学生無料（大学院含む）。学外有識者を招き、卒業生や在学生を対象とした講演会を実施（国大同窓会）
- 就職活動を行う本学学生を対象に、様々な業種で活躍するOB・OGが、自身の会社や仕事内容について紹介等を行う「就職セミナー」を実施している。本学卒業・修了見込みの学生を対象とし、約400社の企業から採用担当者を招きブース形式で行う「学内合同企業説明会」を実施（国大同窓会）
- 就職支援を目的としたシンポジウム、講演会を毎年実施（国大同窓会）
- 同窓会懇親会への在学生招待。懇親会での余興（演奏や合唱等）を在学生に依頼（公立大同窓会）
- 卒業生を講師とした、新入学生向けの講座（一人暮らし向け料理講習会）、卒業生向けの講座（食物アレルギー対応について）を開催。卒業生向けの講座受講料の割引（無料もあり）（私大同窓会）
- キャリアサポート課による在学生向けガイダンスにおいて、卒業生の講演会における経費を支援（私大同窓会）
- 学内でのOB・OG展開催。搬入アルバイトに在学生を使うことにより展示作業の教育、またプロの作家、クリエイターと身近に関わることで授業では見えない現場の世界を体験してもらう（私大同窓会・芸術系）
- テーブルマナー講座、新入会員歓迎会（アフタヌーンティー講習会）（私大同窓会・女子大学）
- 都道府県校友会によるUターン就職支援（説明会・相談会）。かつての学生が数年後に説明役に！（私大同窓会）

■まとめ（知見・考察）

- 「講演会・研究会の開催」において、回答率上位3項目は「卒業生による業界説明会」、「就職活動体験談等の報告会」、「卒業生が所属する企業による就職説明会」であり、キャリア・就職支援に関わる説明会、講演会、報告会、交流会等の支援に関する回答が多かった。しかし、全体回答率が25%を下回っており、必ずしも活発ではない。
- 「就職活動体験談等の報告会」や「卒業生による業界説明会」の開催は、医療福祉系大学同窓会が多い。なかでも公立大学同窓会が比較的多く開催、共催、実施・協力していた。
- 女子大学同窓会では「大学・学園の創設者や関係者に関わる企画展」の回答率が高く、「建学の精神」や「大学（学園）の歴史」の継承に資する事業を重視していることがうかがえる。

(C) 寄付・財政援助事業

- 奨学（金）支援
 授業料免除（融資）支援
 教育ローンの提供
 部・サークル活動等費用の負担
通学費の補助
 アルバイトの斡旋
 施設・設備等の整備支援
 学生寮の設置や管理運営等の支援
その他（上記以外の取組、または選択回答についての補足説明等があれば下記にご記入ください）

■主な回答結果

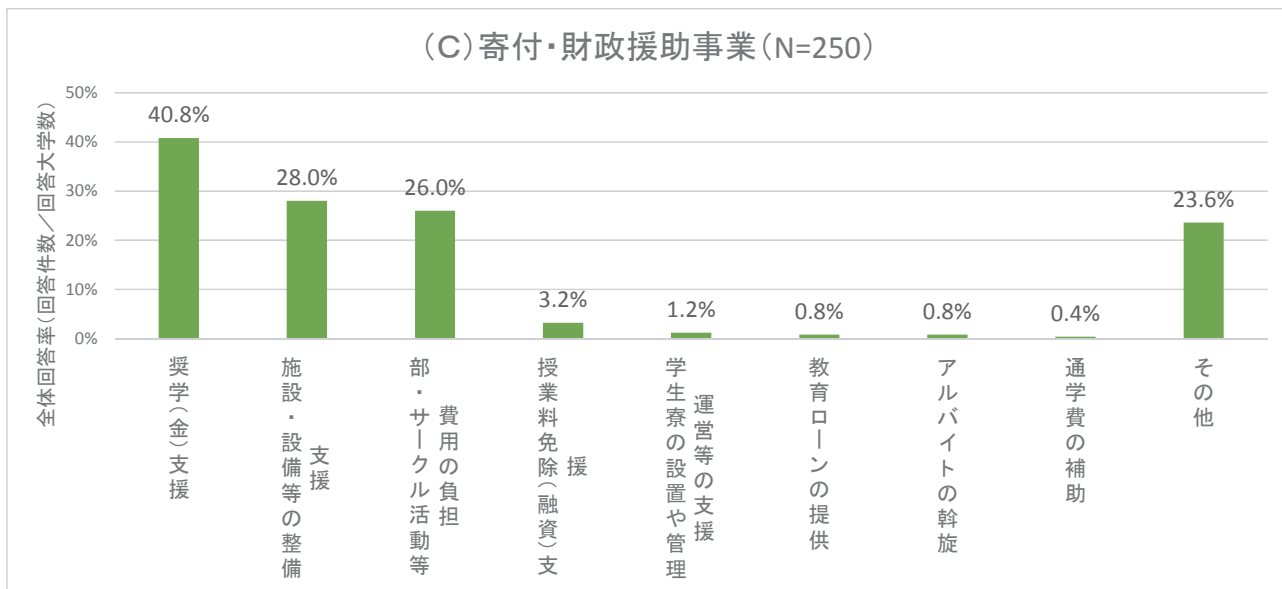


図 3-C 寄付・財政援助事業【全体】

【解説】

- 「寄付・財政援助事業」において、回答率が高かった上位3項目は「奨学（金）支援」（40.8%）が最も高く、「施設・設備等の整備支援」、「部・サークル活動等費用の負担」の順であった。
- 回答率下位3項目は「通学費の補助」、「アルバイトの斡旋」、「教育ローンの提供」の順であった。

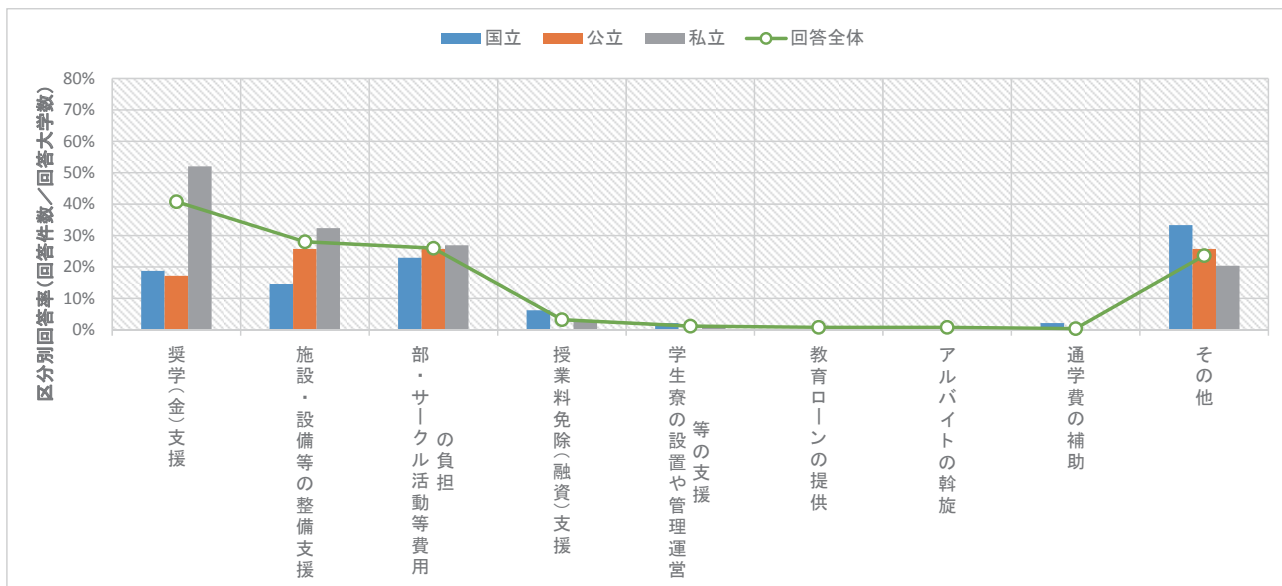


図 3-C-1 寄付・財政援助事業【母体大学等の設置区分】

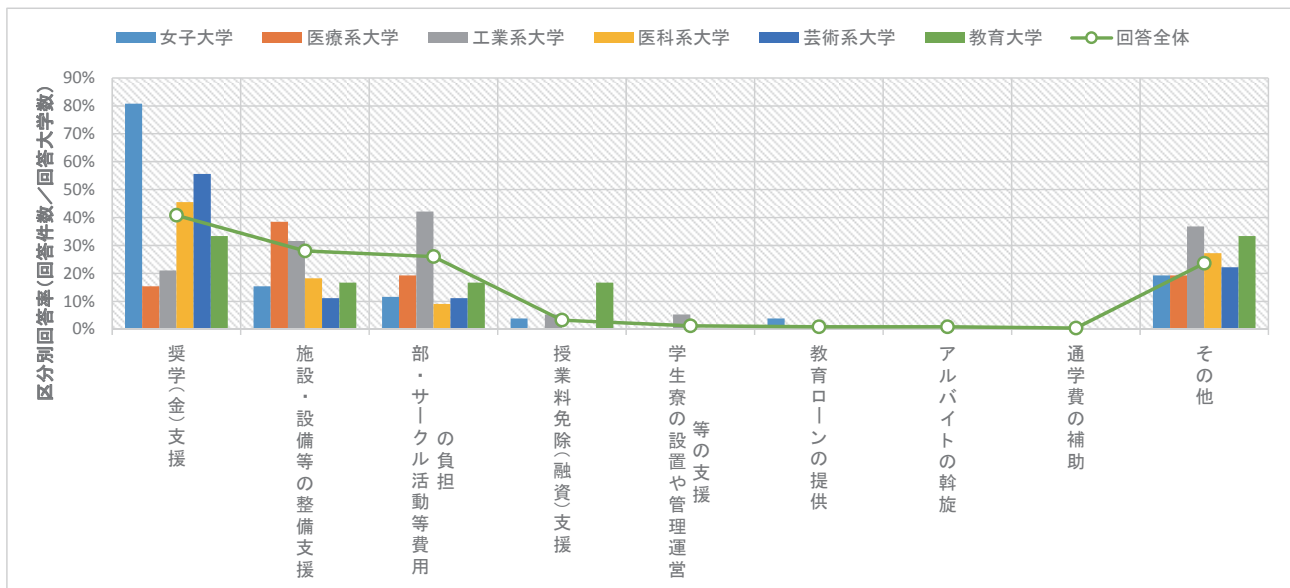


図 3-C-2 寄付・財政援助事業【同系大学】

【解説】

- 私立大学同窓会では「奨学（金）支援」の回答率が 52.1%と最も高く、全体平均より 11 ポイント大きかった。国立及び公立大学同窓会では「奨学（金）支援」の回答率は 20%以下であった。また、国立大学の同窓会では「部・サークル活動等費用の負担」、公立大学の同窓会では「施設・設備等の整備支援」及び「部・サークル活動等費用の負担」の回答率が高かった。
- 女子大学及び芸術系大学同窓会では「奨学（金）支援」の回答率が高く、女子大学同窓会では回答率 80.8%で全体平均より 40 ポイント、芸術系大学同窓会では回答率 55.6%で全体平均より 15 ポイント大きかった。工業系大学同窓会では「部・サークル活動等費用の負担」の回答率が 42.1%と高く、全体平均より 16 ポイント大きかった。医科系大学同窓会では「奨学（金）支援」の回答率が 45.5%、医療系大学同窓会では「施設・設備等の整備支援」の回答率が 38.5%と高かった。

選択回答項目に関する「補足説明」、及び「その他」回答に関する自由記述を紹介する。

【選択回答に関する補足説明】

- 卒業が確定している成績優秀な 4 年生に対し、奨学金制度を設け給付している。給付額は授業料の半額としている（私大同窓会）
- 演奏会等パンフレット広告掲載、全国大会またはそれに準ずる大会への助成（公立大同窓会）
- 同窓生の子供・弟妹が入学した際に、学生生活を応援する奨学金を設けている（私大同窓会）
- 大学と一体となって取り組んでいる寄附事業により集まった寄附金から、在学生に対し、奨学金を支給している（国大同窓会）
- 大学院へ進学する成績優秀者、スポーツ・文化活動に対して成績を修めたり、地域貢献したサークルに授与（私大同窓会）
- 奨学金の支給、クラブの全国大会出場に伴う援助（私大同窓会）
- 奨学金支援は、同窓会創設 50 周年の記念事業として実施します（私大同窓会・女子大学）

- 奨学（金）支援については、①学部学生②大学院博士前期課程生③大学院博士後期課程生④東南アジア留学生を対象に授与している（国大同窓会）

【「その他」回答に関する自由記述】

- 学生食堂への支援として、通常より安価に食べられるメニュー提供（私大同窓会）
- 在学生への奨学金給付（年2名以内、1人当たり30万円／1年間）（私大同窓会・女子大学）
- 学生食堂へのティーマスターを寄付など（私大同窓会・芸術系）
- 課外活動への現物寄付（私大同窓会）
- 「施設・設備等の整備支援」ということに関しては、大学から相談・要請があった場合、協議・検討のうえ、適当と判断される場合には、これを行っております（私大同窓会）
- 「今後の有望な活動」に対し、奨励・支援を目的として、助成金の制度を設けている（作品展の開催、コンペ等への応募等）（私大同窓会・芸術系）
- 大学祭への補助及びクラブ活動にて全国大会へ出場した場合に一定金額を補助している（私大同窓会）
- 大学基金への寄附（寄附金の使途については大学に一任）（国大同窓会）
- 大学の奨学支援事業への協力の他、校友会独自で地方出身者への奨学金給付を行っている（私大同窓会）
- 支援を必要とする特徴的な学生活動に対して支援（国大同窓会）
- 教育研究活性化資金の支援（私大同窓会）
- 成績の優良なサークル等に奨励金の給付を行っています（私大同窓会・女子大学）
- 学生医療技術向上の支援（国大同窓会・医歯薬系）
- 学生の食生活を応援する大学の取り組み「100円朝食」の支援（私大同窓会・女子大学）
- デザイナー自立支援（私大同窓会・芸術系）
- 大学への寄付、全国支部に運動している（私大同窓会）
- 大学の教員と卒業生を対象にした研究助成（私大同窓会・芸術系）
- 大学祭への助成（私大同窓会）
- 大学祭の後援（私大同窓会・医療福祉系）
- 卒業パーティーの支援（私大同窓会・医療福祉系）
- スクールバス購入支援、100円朝食の提供（私大同窓会・工業系）
- 上級（総合職）国家公務員の受験補助、寄附講座の講師補助（国大同窓会）
- 周年事業による大学への支援（バスの購入、在学生の就職活動等）（公立大同窓会・工業系）
- 奨励金給付制度があり、実技・研究の優秀な学生に与えている（私大同窓会・実技系女子大学）
- 就職活動支援・診療費助成（私大同窓会）
- 後援会組織による奨学支援、学生寮の設置の支援、施設建設支援の実績あり（国大同窓会）
- 熊本地震復興支援事業（被災学生への修学支援）への寄付（国大同窓会）
- 教員採用試験対策講座の無料講座を開設（年間25回の講座）（国大同窓会）
- 学食朝食支援、クラス運営費支援、学内レストラン割引支援、卒業を祝う会経費支援（私大同窓会・芸術系）
- 学園創立80周年記念事業への寄付。附属高校甲子園出場へ寄付（私大同窓会・医療福祉系）
- 大学の留学プログラム（グローバルインターンシッププログラム）に海外渡航費の資金を寄付（国大同窓会）

- 海外活動をしている特別な部への渡航費負担（私大同窓会・医歯薬系）
- 県人会活動の助成金交付。Uターン就職支援制度（Uターン就職者を対象に、就職活動経費の一部を援助）（私大同窓会・医療福祉系）
- 学生の就職活動支援に資する取り組みを行っている会員同窓会に対し、経費の一部を助成する事業を実施している（国大同窓会）
- スポーツ振興基金、スポーツチャンネルの提供（私大同窓会）
- 学園祭実行委員会が製作する冊子への賛助広告の掲載。博物館協会キャンパスメンバーズ会員校の会費負担。（国大同窓会・教育系）
- 創立 100 周年への寄付（私大同窓会・女子大学）

■まとめ（知見・考察）

- 寄付・財政援助事業については、「奨学（金）支援」の回答率が高く、多くの全学同窓会における在学生支援の主要事業として実施されていることが推察できる。また、寄付・財政援助事業は、大学からの依頼や、大学後援事業として実施されていることも多い。
- 「奨学（金）支援」を分類別でみると、母体大学等の設置区分では、私立大学同窓会は5割以上が実施している。同系大学では、女子大学同窓会の8割が最も高く、芸術系大学同窓会は5割強、医科系大学同窓会は4割強及び教育大学同窓会は3割程度が実施している。
- グラフは割愛したが、輩出した卒業生総数（会員数）の多さもその背景か、大学規模の大きな同窓会や大学設置年の古い大学の同窓会も、「奨学（金）支援」の回答率は他の類型に比べて高い。
- 奨学（金）支援は、支援を必要とする学生への奨学以外にも、特徴的な学生や学業、芸術、スポーツなどで成果をあげた学生への表彰・育英、あるいは同窓生子弟子女への奨学もあった。
- 奨学のみならず、学園祭や学校行事、課外活動などの支援もある。学生の健康生活支援としての「朝食支援」も広がっている。
- 大学や同窓会の特性（教育、人材養成、立地、伝統など）強化に資する教育研究や、それに取り組む学生への支援も「その他」回答にうかがえる。

(D) 会員相互の親睦・懇親・交流事業（主催、共催、協賛、後援等を含む）

- 卒業生と在学生の交流会
 就職活動における卒業生紹介
 奨学学生による大学生活報告会
 大学・同窓会施設の開放
 その他（上記以外の取組、または選択回答についての補足説明等があれば下記にご記入ください）

■ 主な回答結果

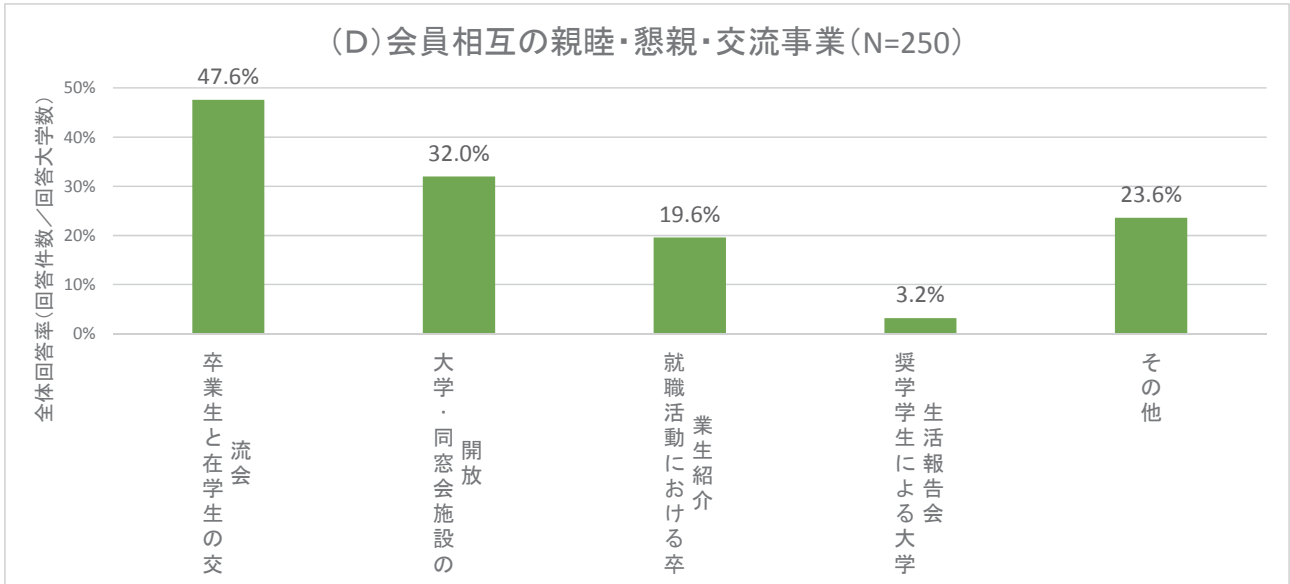


図 3-D 会員相互の親睦・懇親・交流事業【全体】

【解説】

- 「会員相互の親睦・懇親・交流事業」において、「卒業生と在学生の交流会」（47.6%）の回答率が最も高く、半数近い同窓会がこの事業に取り組んでいた。
- 「大学・同窓会施設の開放」を回答する同窓会も 32.0%あり、例えば東京オフィスを学生の就職活動の便宜に提供するという事例もあった。

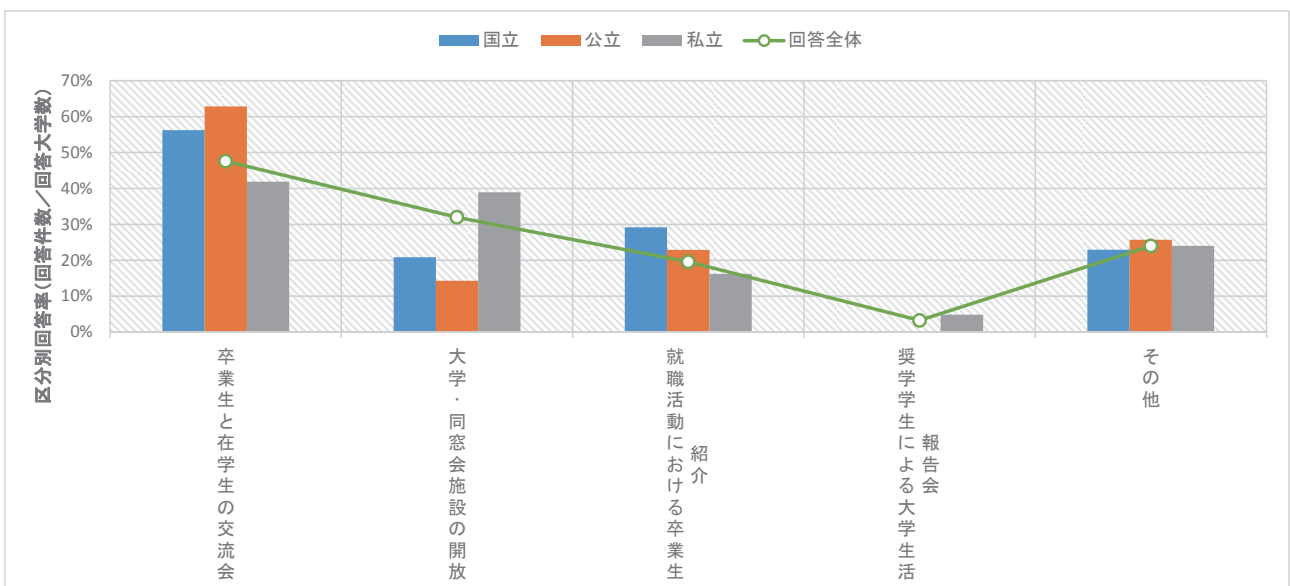


図 3-D-1 会員相互の親睦・懇親・交流事業【母体大学等の設置区分】

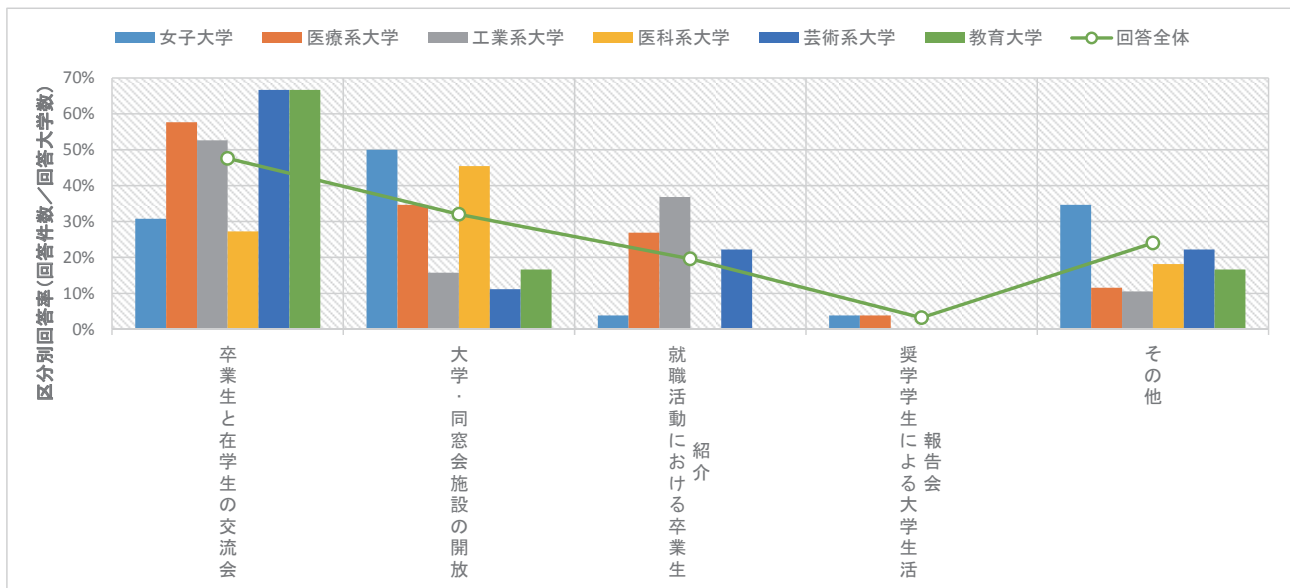


図 3-D-2 会員相互の親睦・懇親・交流事業【同系大学】

【解説】

- 公立大学同窓会では「卒業生と在学生の交流会」の回答率が 56.3%と高く、全体平均より 15 ポイント大きかった。国立及び私立大学同窓会でも「卒業生と在学生の交流会」の回答率が高く、私立大学同窓会では「大学・同窓会施設の開放」も高かった。
- 芸術系大学及び教育大学同窓会では「卒業生と在学生の交流会」の回答率が 66.7%と高く、ともに全体平均より 19 ポイント大きかった。医療系大学及び工業系大学でも「卒業生と在学生の交流会」の回答率が高かった。女子大学及び医科系大学同窓会では「大学・同窓会施設の開放」の回答率が高く、女子大学同窓会では回答率 50.0%で全体平均より 18 ポイント、医科系大学同窓会では回答率 45.5%で全体平均より 13 ポイント大きかった。

選択回答項目に関する「補足説明」、及び「その他」回答に関する自由記述を紹介する。

【選択回答に関する補足説明】

- OB・OG と在学生（特に留学生参加促進）の交流会（国大同窓会）
- 同窓会運営のための大学施設の無償使用許可（事務局事務室、会議室、ホール）（国大同窓会・教育系）
- 在学生と卒業生のつどい、在学生との交流（新年のつどい）（国大同窓会）
- 就職活動、在学時の大学生活、社会人生活など、自由なテーマで懇談できる交流イベント主催（公立大同窓会）
- 「卒業生と在学生の交流会」は、オータムフェスティバル開催に合わせ、ホームカミングデーを開催し、在学生との接点をつくっている。「大学・同窓会施設の開放」は、同窓生へ学内施設貸し出し、庭園開放（私大同窓会）
- 学部で行うホームカミ（ホームカミング）に在学生も参加し交流それに援助（私大同窓会）
- 「先輩カフェ」の実施。芸祭（学園祭）に合わせ在校生就職支援事業を開催（私大同窓会・芸術系）
- 「奨学生による大学生生活報告会」は、校友会給付奨学生との交流会を実施（私大同窓会）

- 同窓会支部総会において、在學生と卒業生との交流会を実施し、進路相談等に応じている。同窓会主催フレッシューズコミュニケーション（新入生対象）の実施（フレッシューズ・コミュニケーション：フレコン）は、新入生にこれから4年間の学生生活を有意義に過ごしてもらうために大学と在学生の協力を得て、毎年4月の入学時に一泊二日の日程で実施。フレコンでは、人生経験豊かな本学教員、在學生及び卒業生が自らの体験をもとに新入生が直面する様々な問題や学生生活等についてアドバイスをを行っている。また、全国各地から学部・性別を問わず参加しますので、新入生にとっては友好の輪を広げる絶好の場となっている（私大同窓会）
- 当同窓会連合会の会員同窓会において、就職活動を行う本学学生がOB・OGと面談し、当該OB・OGの会社、業務内容、業界等に関する説明を受けることができるようにサポートする取り組み（「OB・OG訪問支援システム」の運用）を行っている（国大同窓会）
- 「卒業生と在学生の交流会」：学生が社会に出た後の自分の姿を具体的に描くことを支援するため、年齢が近い先輩と互いの夢を語る会を数ヶ月に一度開催。「就職活動における卒業生紹介」：卒業生名簿を基盤としたオンラインコミュニティサイトを通じて、OB・OG訪問を可としています。「大学・同窓会施設の開放」：交通の便が比較的良い大阪市内に校友サロンを設置（公立大同窓会）
- 創設者記念館を附属高校の大学受験のための学習室として解放（私大同窓会・医療福祉系）
- ホームカミングデーで、奨学生にスピーチをしてもらう（私大同窓会）

【「その他」回答に関する自由記述】

- ホームカミングデーの際、学部等同窓会同士及び卒業生と在学生の交流会を実施（国大同窓会）
- ①OB&OGセミナーを開催（年1回）②「卒業生等首都圏ネットワーク」総会及び講演会を開催（年1回）③各学部同窓会と校友会との共催で「卒業生講演会」を開催（年1回）④首都圏の若手卒業生の会（同窓会）を開催（年1回）（国大同窓会）
- 本学独自のSNS（本学の卒業生・修了生・在學生・教職員間に限られたサイト）を導入（国大同窓会）
- 卒業生対象にキャンパスツアー実施（年2回）（公立大同窓会）
- 卒業生の異業種交流会の開催（私大同窓会）
- 学園卒業生、大学在学生の「祝・成人の会」を学園と共催。また卒業式当日の袴着付けのため同窓会施設の開放（私大同窓会・女子大学）
- 大学と共催で、能・狂言公演、ピアノリサイタル（大学への寄付のため）（私大同窓会・女子大学）
- 社会人学生委員会への参画。大学祭の抽選会で「なでしこ賞」を提供。同窓生プレゼンターによる抽選で大盛り上がり（私大同窓会・女子大学）
- 年に1回、定期総会と親睦旅行を開催します（私大同窓会）
- 支部会への補助（私大同窓会・医歯薬系）
- 同窓会支部における会員の懇親会（私大同窓会・医療福祉系）
- 地域・職域同窓会との懇親・交流（国大同窓会）
- 留学生の入学・卒業式にも参加（国大同窓会）
- 同窓生同士の交流支援（国大同窓会・工業系）
- 学位授与式（卒業式）当日に当該卒業生を対象とした祝賀会を実施（国大同窓会）
- 大学の就職支援担当部門の活動とは別に、公務員、教員、民間企業志望の在學生対象に話しやすいOB・OGとの交流会（内情を含めた本音の部分、心構え、やっておくべき勉強等を伝える）を実施（公立大同窓会）

- コンサートの開催（大学を地域に開放し親しんでもらう目的）（公立大同窓会・医療福祉系）
- 文化講演会の開催、生涯学習講習会の開催（会員以外の参加も可）（私大同窓会・女子大学）
- 学園祭への参加（バザー・喫茶等）（私大同窓会）
- 周年記念パーティーの開催、卒業生のプロ野球選手の祝賀会、野球教室の開催、懇親バスツアー実施等（私大同窓会）
- 大学行事「新入生交流会」の協賛、卒業生および在学生保護者を対象に全国数カ所にて開催する講演会・大学近況報告・就職説明会の協賛（私大同窓会・女子大学）
- 研修会、保育講座、見学研修会（私大同窓会・女子大学）
- 毎年開催の同窓会総会・懇親会に、在学生は準会員として参加していただけます（お手伝いで参加中）（私大同窓会・女子大学）

■まとめ（知見・考察）

- 会員相互の親睦・懇親・交流事業として、「卒業生と在学生の交流会」については、全体及び各同窓会の特性に関わらず、実施する傾向が高い。また、就職活動支援（キャリア支援）という形態でも実施しやすく、他の実施事業の回答率が低い教育系大学同窓会でも回答率が高かった。
- 紙面の関係でグラフを割愛したが、大学の設置年が古い同窓会や大学規模の大きい同窓会の方が、「卒業生と在学生の交流会」、「大学・同窓会施設の開放」及び「就職活動における卒業生紹介」の回答率が高くなっていることから、輩出した卒業生総数（会員数）の多さが要因の一つであると考えられる。
- 卒業生（同窓会）からも現役学生との交流を望むニーズは高く、こうしたことが「卒業生と在学生の交流会」開催の背景になっているとも考えられる。
- 会員相互の親睦・懇親・交流事業は、卒業生（会員）の新たな人脈形成のための異業種あるいは同業種交流会や、世代別交流会など様々に工夫されている。また、そこに在学生を参画・参加してもらおうという形態を採用することも多い。これにあたっては、学園祭やホームカミングデー、卒業式、地方支部総会なども重要な機会となっている。

(E) 大学・母校への支援・後援事業（主催、共催、協賛、後援等を含む）

- ホームカミングデーの開催
 オープンキャンパスへの支援
 学園祭への参画
 大学シャトルバスの運用
大学関連グッズの提供
 卒業記念品の贈呈
 全国規模の大会（駅伝、野球、アメフト等）に関わる応援
その他（上記以外の取組、または選択回答についての補足説明等があれば下記にご記入ください）

■主な回答結果

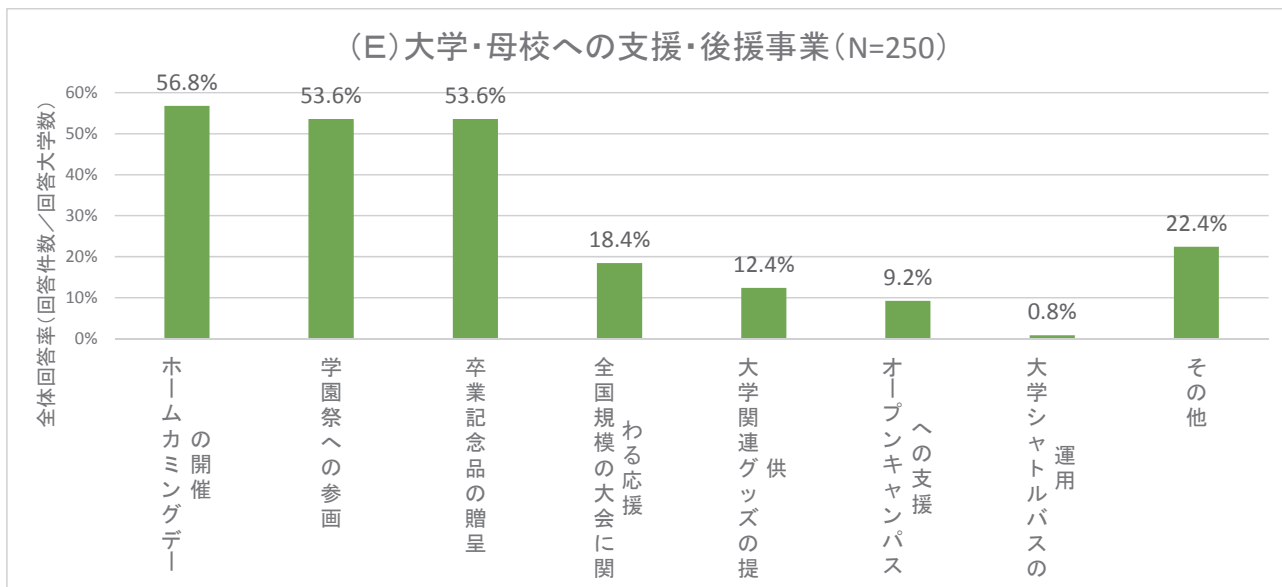


図 3-E 大学・母校への支援・後援事業【全体】

【解説】

- 「大学・母校への支援・後援事業」において、回答率が高かった上位3項目は、「ホームカミングデーの開催」（56.8%）が最も高く、「学園祭への参画」、「卒業記念品の贈呈」の順であった。
- これら3項目は、今回の調査で回答のあった全学同窓会のうち、半数以上で回答選択している。

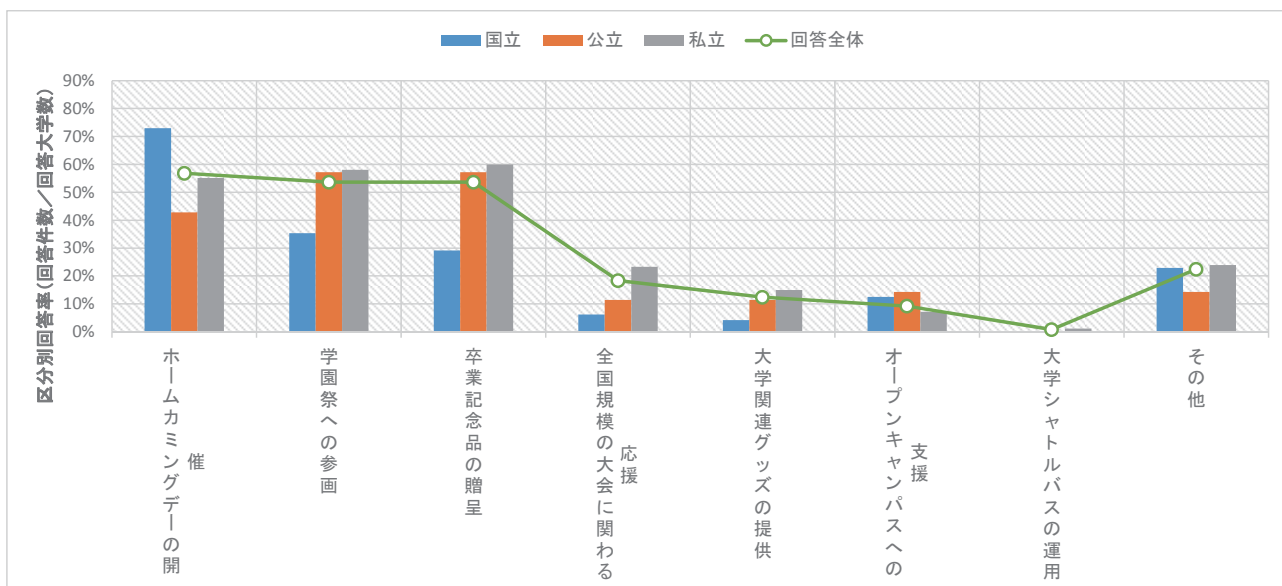


図 3-E-1 大学・母校への支援・後援事業【母体大学等の設置区分】

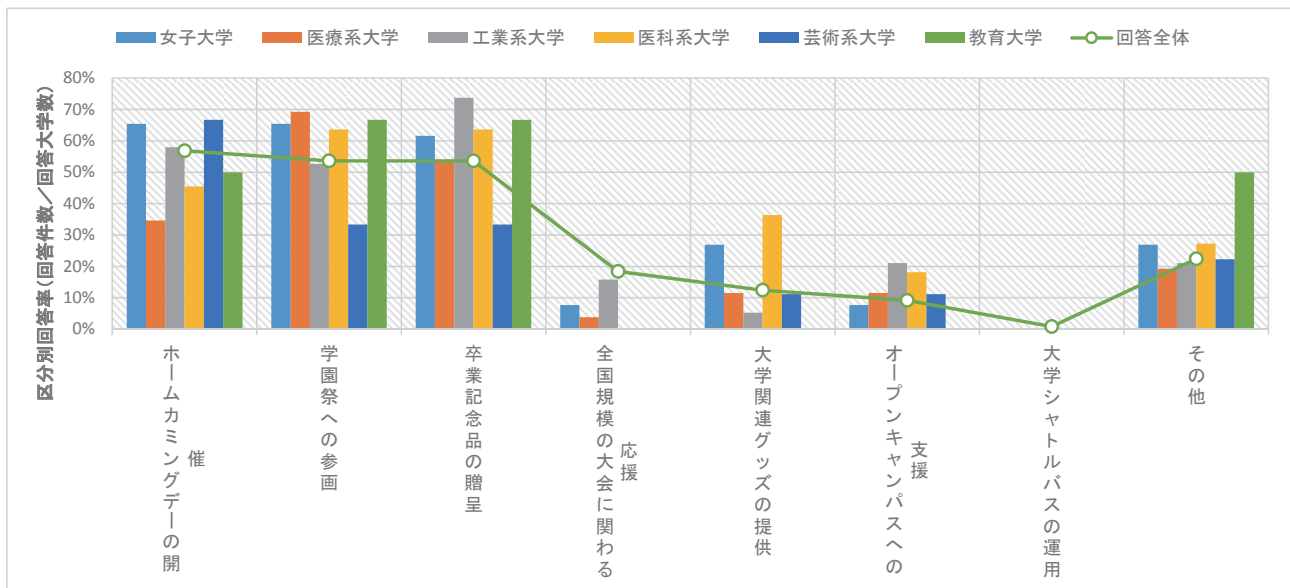


図 3-E-2 大学・母校への支援・後援事業【同系大学】

【解説】

- 国立大学同窓会では「ホームカミングデーの開催」の回答率が 72.9%と高く、全体平均より 16 ポイント大きかった。公立大学及び私立大学同窓会では「学園祭への参画」及び「卒業記念品の贈呈」の回答率が 59%前後と高かった。
- 大学の特性ごとにみても、「ホームカミングデーの開催」、「学園祭への参画」及び「卒業記念品の贈呈」については回答率が高かったが、医療系大学同窓会では「ホームカミングデーの開催」、芸術系大学では「学園祭への参画」及び「卒業記念品の贈呈」の回答率が相対的に低かった。

選択回答項目に関する「補足説明」、及び「その他」回答に関する自由記述を紹介する。

【選択回答に関する補足説明】

- ホームカミングデーにおいて福引景品協力と出店協力をおこなっている。卒業記念品として校歌歌詞付 CD 等を贈呈している。箱根駅伝では沿道の支部・地域支部が応援を行っている（私大同窓会）
- 大学祭の日程に合わせて、ホームカミング JAZZ バー（喫茶）を開店（運営には卒業生・在学生多数に参加してもらう）大学祭で在学生・卒業生のほっと出来るスポットを提供（公立大同窓会）
- 全国大会、世界大会レベルでの活躍者へ助成金（私大同窓会）
- 講演会の開催（私大同窓会・芸術系）
- 学園祭への支援金（私大同窓会・女子大学）
- ホームカミングデーの開催については、大学内で、年 1 回同窓会幹事会を実施。変わりゆく母校の様子を見てもらう機会を提供。学園祭への参画については、「同窓生のお休み処」を設置し、同窓生の交流の場としている。卒業記念品の贈呈については、名刺入れを贈呈（私大同窓会・女子大学）
- ホームカミングデー、オープンキャンパス時に同窓会会館施設を開放（国大同窓会）
- 主な 4 つのキャンパスで「ウェルカムキャンパス」を実施。その費用を負担（公立大同窓会）
- 卒業記念品については、「大学院学位（修士）記収納ケースの寄贈」、「各学部総代及び卒業生総代への記念品贈呈」、「機関誌“関大”卒業記念号の発行」を行っております（私大同窓会）

- 同期会（第〇期の会）（大学主催）への協力、還暦を迎えた卒業生を大学に招き、交流を図る同期会の参加呼びかけ、実施などに協力。図書館書評大賞大学が主催する図書館書評大賞の入賞者に、同窓会長賞を贈呈。図書館書評大賞は、学部学生が本学図書館の蔵書から図書を選び、1,600字以上2,000字以内の書評を書いて Web 上で大学に応募するもので、学生の読書の推進、文章表現能力、論理的思考能力の向上を目的として実施。「夢や興味」の実現に向かって、エネルギーに挑戦する学生を応援。「チャレンジ部門」と「スピーチコンテスト部門」の2部門を表彰・記念品の贈呈（私大同窓会）
- 新入生歓迎フェスティバルへの支援（国大同窓会）
- 学園祭などの時に在学生との交流会支援をしています。また学園祭時にイベントをしています。卒業記念品については、学友会と共同で記念品を渡しています（私大同窓会・工業系）
- 大学祭実行委員会への寄付（私大同窓会・医療福祉系）
- 同窓会の名称でグッズを作成し、入会記念、国際交流記念品などに活用（公立大同窓会・医療福祉系）

【「その他」回答に関する自由記述】

- 大学イベント「こどもがつくる町ミニたまゆり」の「エコバザー」に参画。学生会メンバーの援助を得て実施。大好評！！同窓生もお子さんを連れて来てくれます（私大同窓会・女子大学）
- 入学祝いの贈呈（私大同窓会・医歯薬系）
- 卒業生宛てに送る学園の「広報誌」に関わる作成・郵送費用として年間40万円を補助（私大同窓会）
- バザーの共催（収益は全額学院に寄付）（私大同窓会・女子大学）
- 同窓会入会記念品を卒業時に贈呈（私大同窓会）
- 大学スクールバス車両を特別寄付（私大同窓会・工業系）
- 卒業パーティーの支援（私大同窓会・医療福祉系）
- 周年事業として寄附金を大学へ（私大同窓会・実技女子系）
- 校友会への入会記念として、新入生に「学生朝食奨励券」（250円相当×2枚）を贈呈（国大同窓会）
- 後援会組織によるオープンキャンパスへの支援あり（国大同窓会・工業系）
- 行事費の支援、マイク・アンプセット等物品の貸し出し、基金の支援（国大同窓会・教育系）
- ホームカミングデーは、大学との共催（大学祭開催期間中に実施）。入会念品の贈呈（国大同窓会・教育系）
- 大学が管理する卒業生等名簿管理システムの整備・運営への協力（国大同窓会）
- 卒業記念パーティーに対しての補助・応援バスへの補助（全国大会）（私大同窓会）
- 入学記念品の贈呈（公立大同窓会）
- 入学記念品贈呈、学園へ助成金授与（200万円）学園祭実行委員会への助成金授与（14万円）学園祭で優秀サークルへ賞金授与（合計12万円）（私大同窓会・女子大学）
- 大学と共催で年3回土曜講座を開催（講師は大学の先生1名と卒業生1名で）（私大同窓会）
- 各同窓会に対する援助（個人で集まる同窓会）（私大同窓会）
- クラブ・同好会発表会支援。卒業記念祝賀パーティーへの支援（私大同窓会・女子大学）
- 大学紹介 TV 番組への協賛、大学基金協力への呼びかけ（同窓生への案内送付）（国大同窓会）
- 入学記念品の贈呈（公立大同窓会）
- 定期的な寄付金の贈呈（私大同窓会・女子大学）
- 入学時に徽章を配付している（国大同窓会）

- 新入生に対して「校友会オリジナル卓上カレンダー」を製作し、渡しております。その他、「本学の魅力を市民・受験生に広く発信し、併せて大学・校友・父母相互の絆を更に深める」ことを目的として、一昨年より、大学・校友会・教育後援会との共催で、近畿圏外の都市において「関西大学フェスティバル」を開催しています（私大同窓会）
- 過去3年分の就職活動体験報告書を冊子にまとめ、毎年、3年生全員に配布しています（制作資金提供）関連グッズの提供としては、入学記念祝品として校章を新入生に配布（私大同窓会・女子大学）
- 留学生支援、奨学金支援、ボランティア支援、地域連携（私大同窓会）
- ラーニング・コモンズ設置（私大同窓会・医療福祉系）
- 毎年卒業生と入学生に心ばかりの品を配付しています（私大同窓会・女子大学）
- 入学式において校友会各支部名産品の提供（私大同窓会）
- 入学記念品の贈呈（私大同窓会）
- 入学記念品（学修ポートフォリオファイル、多機能ボールペン）の贈呈（国大同窓会）
- 大学への寄付について卒業生へPRするとともに、協力・支援要請を行う（会報、HPへの記載、支部イベントでの要請等）また、大学の寄付関連委員会にも参画（公立大同窓会）
- 大学祭への援助、各種コンテストへの援助。入学式・学位記授与式会場へお花を贈呈（私大同窓会）
- 卒業記念パーティーの開催（私大同窓会）並びに（国大同窓会）
- 創立式典への支援、同窓会入会式実施、大学入学式・卒業式式典参加、クリスマス礼拝祝会支援、宗教部ボランティア活動の支援（私大同窓会）
- 全国各地で開催する大学企画の会と支部（あるいは役立ちそうな会員）との橋渡し。大学関連グッズの提供については、入学時にクリアファイルに資料を入れて配布（私大同窓会）
- 学園祭に対する財政支援、会員主催の音楽会等の紹介・招待券の交付（私大同窓会・芸術系）

■まとめ（知見・考察）

- 「大学・母校への支援・後援事業」については、5割以上の国立及び私立大学同窓会において「ホームカミングデー開催」が実施されており、卒業生組織が大学と共同する事業機会として、ホームカミングデーは重要な場となっている。
- 紙面の関係でグラフを割愛したが、大学等の設置年が古い同窓会や大学規模の大きい同窓会で「卒業記念品の贈呈」や「ホームカミングデー開催」の実施が多くみられることは、卒業生数の多さや運営資金の収入状況等が影響しているのではないかと考えられる。
- 同様に「学園祭の参画」も、卒業生組織が大学・母校を支援する重要機会となり、卒業生組織と現役学生との交流の場、支援機会として位置づけられている。
- 在学生卒業時には、同窓会への入会歓迎を兼ねたパーティーや交流会の開催、記念品の贈呈をする組織も多い。
- 母校の周年事業に関わる募金協力や寄付も同窓会事業の主要業務である。

在学学生支援事業の特色・傾向

以下の表は、在学学生支援事業として設定した（A）～（E）の全回答項目の結果をとりまとめ、全学同窓会の主な区分ごとに降順に並べ、50%以上の同窓会で実施されているものを抽出したものである。

表 2-1 在学学生支援事業に関する回答結果のうち上位 50%の項目【母体大学等の設置区分】

国立大学同窓会 (N=48)	割合	公立大学同窓会 (N=35)	割合	私立大学同窓会 (N=167)	割合
ホームカミングデー開催	72.9	卒業生と在学学生の交流会	62.9	卒業記念品の贈呈	59.9
卒業生と在学学生の交流会	56.3	学園祭への参画	57.1	学園祭への参画	58.1
		卒業記念品の贈呈	57.1	ホームカミングデー開催	55.1
				奨学（金）支援	52.1

表 2-2 在学学生支援事業に関する回答結果のうち上位 50%の項目【母体大学等の設置年】

1947 年以前 (N=20)	割合	1948 年～1962 年 (N=87)	割合	1963 年～1967 年 (N=28)	割合
卒業記念品の贈呈	80.0	ホームカミングデー開催	70.1	奨学（金）支援	67.9
奨学（金）支援	75.0	卒業生と在学学生の交流会	51.7	卒業記念品の贈呈	67.9
ホームカミングデー開催	75.0			学園祭への参画	50.0
学園祭への参画	60.0				
卒業生と在学学生の交流会	55.0				

1968 年～1987 年 (N=35)	割合	1988 年～2010 年 (N=80)	割合
ホームカミングデー開催	54.3	学園祭への参画	62.5
卒業記念品の贈呈	54.3	卒業記念品の贈呈	50.0
学園祭への参画	51.4		

【解説】

- 国立大学同窓会では「ホームカミングデー開催」を7割以上で実施しているが、この他に回答率5割を越える在学学生支援事業は「卒業生と在学学生の交流会」だけである。それに対し、私立大学同窓会で5割を越える在学学生支援事業は「卒業記念品の贈呈」、「学園祭への参画」、「ホームカミングデー開催」及び「奨学（金）支援」の4つである。
- 母体大学等の設置年が1947年以前の同窓会では回答率5割を越える在学学生支援事業が5つあり、「卒業記念品の贈呈」、「奨学（金）支援」及び「ホームカミングデー開催」については7割以上で実施されている。また、1947年以前及び1948年～1962年の同窓会で5割を越える在学学生支援事業には「卒業生と在学学生の交流会」もある。

表 2-3 在学学生支援事業に関する回答結果のうち上位 50%の項目【大学規模（収容定員）】

大規模（N=28）	割合	中規模（N=56）	割合	小規模（N=166）	割合
ホームカミングデー開催	78.6	ホームカミングデー開催	69.6	学園祭への参画	59.6
奨学（金）支援	57.1	卒業生と在学学生の交流会	50.0	卒業記念品の贈呈	56.0
卒業生と在学学生の交流会	57.1				
部・サークル活動等費用の負担	50.0				
卒業記念品の贈呈	50.0				
全国規模の大会に関わる応援	50.0				

表 2-4 在学学生支援事業に関する回答結果のうち上位 50%の項目【同系大学】

女子大学（N=26）	割合	医療系大学（N=26）	割合	工業系大学（N=19）	割合
奨学（金）支援	80.8	学園祭への参画	69.2	卒業記念品の贈呈	73.7
ホームカミングデー開催	65.4	卒業生と在学学生の交流会	57.7	ホームカミングデー開催	57.9
学園祭への参画	65.4	卒業記念品の贈呈	53.8	卒業生と在学学生の交流会	52.6
卒業記念品の贈呈	61.5			学園祭への参画	52.6
大学・同窓会施設の開放	50.0				

医科系大学（N=11）	割合	芸術系大学（N=9）	割合	教育大学（N=6）	割合
学園祭への参画	63.6	卒業生と在学学生の交流会	66.7	卒業生と在学学生の交流会	66.7
卒業記念品の贈呈	63.6	ホームカミングデー開催	66.7	学園祭への参画	66.7
		奨学（金）支援	55.6	卒業記念品の贈呈	66.7
				ホームカミングデー開催	50.0

【解説】

- 大学規模が大規模（8,000名以上）の同窓会では回答率5割を越える在学学生支援事業が6つあり、「ホームカミングデー開催」は7割以上で実施されている。「奨学（金）支援」も6割弱が実施されているが、課外活動支援である「部・サークル活動等費用の負担」や「全国規模の大会に関わる応援」もある。
- 大規模及び中規模の同窓会では「卒業生と在学学生の交流会」が5割以上で実施されている。大学規模（収容定員・学部数）に共通する要因として、卒業生総数の規模が在学学生支援の実施状況にも反映していると考えられる。
- 女子大学同窓会では回答率5割を越える在学学生支援事業が5つあり、「奨学（金）支援」を8割以上、「大学・同窓会施設の開放」も5割で実施している。医療系大学同窓会では「学園祭への参画」、工業系大学同窓会では「卒業記念品の贈呈」が最も実施されている。
- 工業系大学同窓会と教育大学同窓会では、各事業の実施割合は異なるものの、4つとも同じ事業が実施されている。女子大学及び芸術系大学同窓会のみ、「奨学（金）支援」が上位50%にあがっている。

上記「Ⅱ 在学生支援に関わる事業の実施状況について」の設問・回答全般に関し、補足説明、詳細などがございましたらご記入ください。在学生支援事業に関するお考え、事業の成果、事業実施上の課題でも結構です。

この設問に回答いただいた自由記述について、その内容を領域ごとに区分して以下に紹介する。

【在学生支援について】

- 就職支援・大学院生の学会発表の援助・奨学金が主な支援内容です。またクラブのOB会やクラブの周年記念行事などへの金銭的援助を行っています（私大同窓会・工業系）
- 在学生支援のプログラムを増やしていく必要があると考えている（国大同窓会）
- 学友会活動・学園祭実行委員への支援（私大同窓会）
- 周年事業として寄付したものは、大学で10年分割し、学生に与えている（私大同窓会）
- ①単独学部の学生ではなく全学的な学生支援に配慮し、就職、グローバル化及び異なる学部間の学生交流への支援等に力点を置いている。②生涯会費は入学直前に他の経費と一括納入するシステムなので、入学後、学生は校友会の会員であるという認識も乏しい状況である（国大同窓会）
- 学園設置校毎に校友会があり、課外活動や就職活動などのような直接的な在学生支援についてはそれぞれで行なっています（私大同窓会・工業系）
- 在校生を準会員として位置づけている。これには会費の徴収と大いに関係があり、入学時に入学金・授業料と併せ同窓会費も任意として徴収しており、そのため安定的な資金が調達できる（私大同窓会）
- 学生支援の方策は大きな課題と考えるも、現状無策である（私大同窓会）
- 資金を持たない組織となっているため、事業に併せ予算を組み、各学部同窓会からの寄付、大学予算により事業を行っている（国大同窓会）
- 各学部の同窓会組織が在学生に対し、教育、研究活動における様々な支援を行っており、本学全学同窓会は、学部の枠組みを超えた総括的な役割を担っている（国大同窓会）

【独自の取組】

- 立学の精神にふさわしい課外活動を行っている学生・生徒の団体を表彰（私大同窓会・女子大学）
- 毎年ではないが、姉妹提携校（海外）からの留学生を受け入れた時の行事に対する援助、交流。大学関連グッズに関しては、提供ではなく購入することで援助（クラブ企画のもの含む）（私大同窓会）
- 珍しい取組として、学生間のスポーツ交換会支援、公開模擬面接会、学科学生教育支援（国大同窓会）
- 今年度より学内の同窓会役員室に常駐の事務員をおき、在学生と交流しながら同窓会の活動の周知を狙っています。（事務員が元学内施設の職員で、元々学生の相談に乗っていたからできている部分でもあります）（私大同窓会・芸術系）
- 留学生に日本文化に馴染めるよう事業の補助等。在学生に関する無利子型貸付奨学金制度や海外留学研修奨学金を毎年実施。熊本地震の在学生ボランティア活動の助成金を援助。地域イベントに関する助成金を援助（私大同窓会）
- メモリアルデー（毎年7月4日）（礼拝・後援）。同窓生によるコーラスグループ（毎年総会・クリスマス礼拝、チャリティーコンサート実施）（私大同窓会）
- 後援会が主となって実施している100円朝食の費用の一部負担（私大同窓会・医歯薬系）
- キャンパス内に同窓会の部屋を大学から有償で借りて（一部屋約20畳程）、11:00～16:00まで学生の

出入り自由で就職、留学、学園生活の相談相手となっている。同窓生（年輩者）が常時3人ぐらいが出ている（国大同窓会）

- ①奨学金（返却不要）制度を検討中。②同窓会会員をデータ化し、就職活動生に閲覧を許可（学生でログインデータの一部提供）（私大同窓会・医療福祉系）

【今後の展望】

- 来年度は在学生保護者対象（特に2、3年）のオープンキャンパスを計画。就職・進学に係る説明会を中心に行う予定（公立大同窓会・工業系）
- 同窓会活動を主として卒業生に対して行ってきたが、今後は在学生支援に力を注ぎたいと思い、在学生の要望を汲み上げて、大学とも協力しながら活動していく方針を決定して今年度から新しく取り組んでいくことになりました（公立大同窓会）
- 大学となる以前に短大、それ以前に2つの専門学校等を統合しながら発展してきた経緯があります。これからもっと事業化や愛着形成に向けて進めようとしているところです。専門学校、短大時代はほとんど活動していませんでした。ただ県立であることもあり、多くの卒業生が県内医療施設に就職し、職業団体としても組織化されているので、”同窓会”としての活動がなくても、つながってはいます。また、実習では、教員は卒業生とコンタクトは常にとっているなどもつながりはありますが、愛着はないのかも知れません。今、やっと施設単位での組織づくりにとりかかったところです（公立大同窓会・医療福祉系）
- 来年度実施予定の事業として、奨学金事業、ランチ補助事業を計画（国大同窓会・教育系）
- 東京における就職活動の拠点を検討している（公立大同窓会）

【組織体制や現状】

- 文系・理系・医系各学部同窓会を束ねる形の「全学同窓会」として、在学生の保護者の団体「教育後援会」とともに、大学及び在学生支援活動を連携し、協力しながら推進している（「大学」もメンバーの3者で構成する「大学支援協議会」を設け、役割分担しながら推進中）（公立大同窓会）
- 本会は、財政規模も小さく、事務局についても選任体制ではないため、事業実施については限界がある。在学生支援については、今後の少子化による学生確保や人材育成の観点からも必要性を感じており、大学側へ共同による施策形成の提案を呼びかけているが、反応が鈍い（公立大同窓会）
- 何項目か数年前まで支援していたものもありましたが、時代の流れや学生の減少に伴い止めてしまったものがあります（私大同窓会・女子大学）
- 同窓会組織ができてまだ日が浅く、また組織規模も小さいため、十分な支援はできていません。現在、活動内容を検討している段階です（私大同窓会・医療福祉系）
- かつては、特定の部（活躍が期待されるであろう部活動）への備品等の寄付を行っていたが、大学側から数百万円分の設備を寄贈してもらえないか・・・と打診があり、全会員にアンケートを行った結果、賛否真っ二つになり、以降、特定の部の支援は行っていない。※他の部からも同額の要求が出てきた場合、対応しきれぬのかどうか・・・というのが一番の要因（私大同窓会）

【課題】

- 年々、会費（同窓会費・永年扱い）の納入率が低下していく中、これまでの活動を維持していくことに課題がある（公立大同窓会）

- 大学との連携が課題。三位一体（大学・教育後援会・同窓会）との連携が不可欠。在学生に対する支援を目立つようにしていくことも卒後の同窓会への関心度の向上にもつながる。大学教職員に同窓会の必要性が認識されていないため、取り組みが難しい現状（私大同窓会）
- 同窓会の財源で考えますと、同窓会の親睦に多くの費用が費やされてしまい、在学生支援に対し、消極的になっているのが現状です。大学との関係を考えますと、在学生への支援は重要であると思っています（私大同窓会）
- 支援していることが在学生に知られていないため、それを周知することが課題（国大同窓会・工業系）
- 検討事項として、卒業生に還元出来るような事業を考える必要性がある。現状では、ホームカミングデーの参加者は少ない（私大同窓会）
- 旧専門学校、短期大学の学部別同窓会と県立4年制大学との同窓会が統合されてまだ10年です。在学生支援などこれからの課題です（公立大同窓会）
- 大学の性質上、資格取得のためのカリキュラムにより、学生が大変忙しく長期休暇も実験実習に費やされるため、同窓会の行事へは参加しにくい状況にある。どのようにすれば同窓会への関心を高めることが出来るか、常に課題となっている（私大同窓会・女子大学）
- 本会としては、大学との連携を密にすることにより、学生に対する種々の支援を展開できると考えていますが、まだまだ充分であるとはいえず、今後の課題となるところであります（私大同窓会）
- 入会者の減少により、事業展開が困難なことが課題です（公立大学同窓会・医療福祉系）
- 会費はないが、現役生を準会員としている。現役生の為に何か支援をしたいという話を、多くの同窓生から聞くので、同窓生による現役生への支援を今後検討していきたい（私大同窓会）
- 在学生に対して、同窓会の存在のアピール、学生生活において卒業生や同窓会が持つネットワークや資源をいかに活用するかについて、理解を深めてもらえるように大学と連携して広報活動を展開していく課題があります（私大同窓会・医療福祉系）
- 今後、現役学生のOB・OG訪問制度を大学と協同でどのように構築していくかが課題（私大同窓会）

■まとめ（知見・考察）

- 在学生支援は、卒業生組織がそれぞれの特性や事情をふまえて実施しており、今後さらなる充実を企図する組織もあれば、現行の規模や体制では、在学生支援の実施は困難と考える組織もある。
- 在学生支援として、奨学金の提供だけでなく、母校建学の精神の継承・高揚に取り組む学生の支援や表彰、母校の伝統行事への支援、朝食支援、スポーツ支援、就職・留学・学生支援など、様々な在学生支援が展開されている。
- 在学生支援の実施には「大学との協力関係が重要」と指摘する組織も多い。卒業生組織による在学生支援を歓迎する大学(母校)もあれば、これを拒否する大学(母校)もある。
- 在学生支援を行うにあたっては、卒業生の母校への関心や愛着、卒業生組織（同窓会・校友会）への参加・参画状況が重要であり、それが在学生支援に関わる財政や人材を担保する基盤となる。それゆえに、母校が在学生支援を考える前に、まずは「卒業生組織の活性化」が必要と考える組織も多い。そのために、卒業生が母校や在学生に関心を向ける契機として、卒業生と在学生との「交流」機会や母校行事への参画、広報活動も企画されている。
- 将来の「卒業生（同窓生、校友）」として、在学生に「卒業生組織（同窓会等）」を認知してもらうことも重要であり、在学生への同窓会周知活動や卒業生との交流事業を重視する組織もある。

3. 3 設問「Ⅲ 校友育成事業について」

貴会において行われている事業のうち、「建学の精神継承」、「大学・学園に対する愛着形成」、「母校構成員としての意識向上」など「校友育成に資する事業」の有無を教えてください。

- 1) 実施している 2) 実施を計画している 3) 実施を検討している 4) 実施していない 5) その他

■主な回答結果

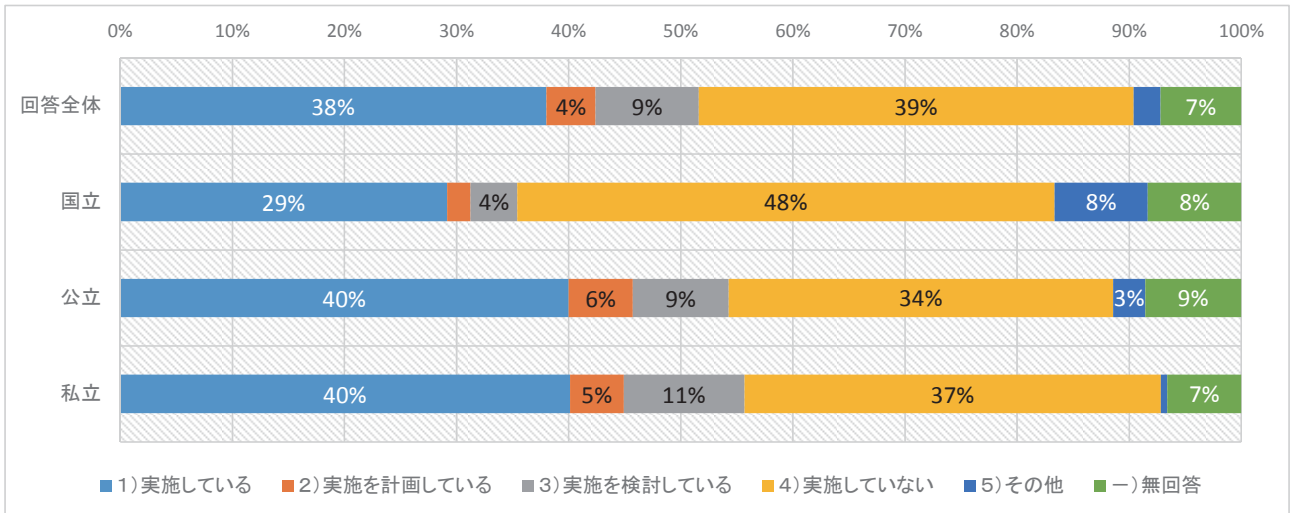


図 4-1 校友育成に資する事業に関する回答結果【母体大学等の設置区分】

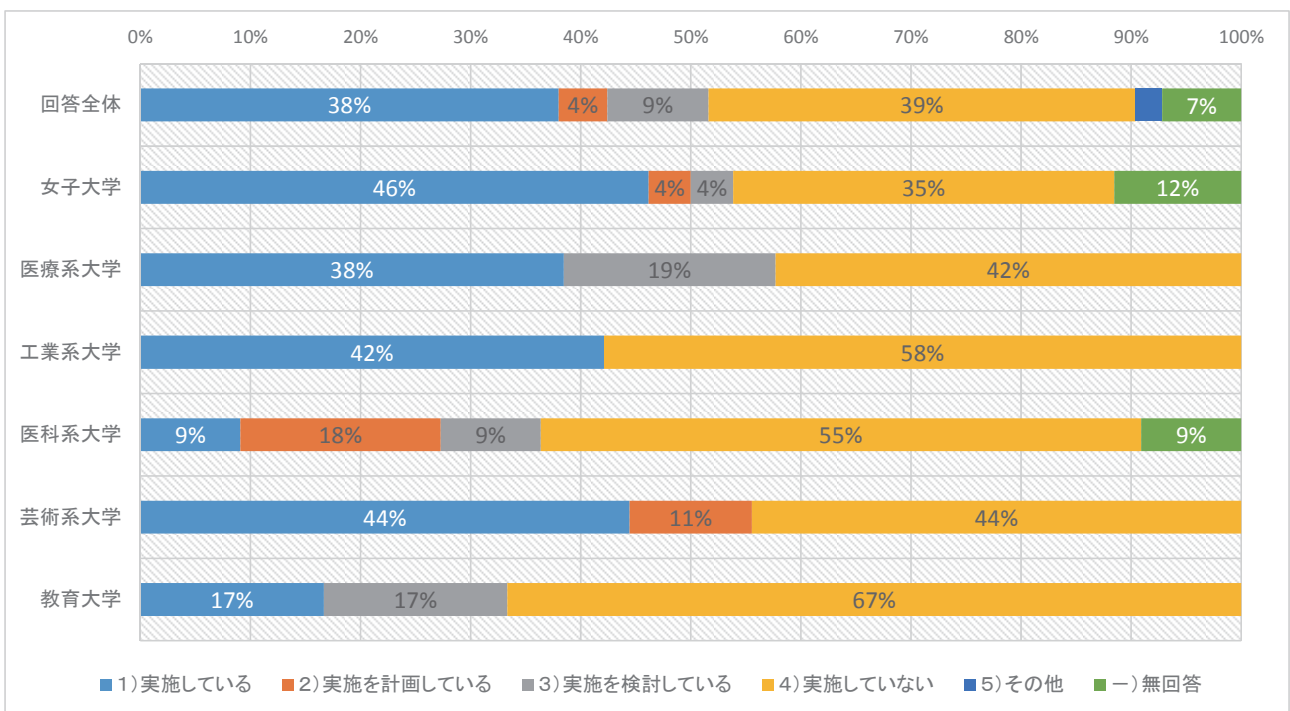


図 4-2 校友育成に資する事業に関する回答結果【同系大学】

【解説】

- 校友育成事業について、全体の回答では「1）実施している」が 38%であり、また「2）実施を計画している」及び「3）実施を検討している」はあわせて 14%程度であった。
- 「4）実施していない」の回答比率は 39%であり、「1）実施している」の比率とほぼ同程度。
- 公立及び私立大学同窓会では約 40%が「1）実施している」と回答しており、「4）実施していない」の割合を上回っていた。一方、国立大学同窓会では「1）実施している」より「4）実施していない」の割合の方が高く、「3）実施を検討している」まで含めても 50%を下回っていた。
- 大学の特性ごとの回答傾向を見れば、女子大学同窓会では「1）実施している」の割合が 46%であり、「4）実施していない」の割合を上回っていた。女子大学（学園）同窓会では、「建学の精神継承」、「大学・学園に対する愛着形成」、「母校構成員としての意識向上」等の「校友育成に資する事業」を重要視していると考えられる。
- 「4）実施していない」の割合では、教育大学同窓会では 67%、工業系大学同窓会では 58%、医科系大学同窓会では 55%であり、「3）実施を検討している」まで含めても 50%を下回っていた。

設問

1）、2）、3）及び5）を選択された場合、具体的な取組内容や特色ある取組などがございましたら、ご紹介ください。

■上記の「校友育成に資する事業」として「1）実施している」との回答があったうち、その補足説明の内容を領域ごとに区分して以下に紹介する。

【卒業生同士、在学生との交流】

- 在学生、卒業生交流会の開催（年1回）。「卒業生交流会」を大学内組織と共催で行っている（年1回）（公立大同窓会・医療福祉系）
- 3年毎に同窓会支部の協力のもとに、大学、父母会と「淑徳大学フェア」を開催（共催）し、全国各地で母校愛を確認する場としている（私大同窓会）
- 熊本大学東京・関西・九州連合同窓会の総会・講演会・交流会を行っている（国大同窓会）
- 「校友大会」の開催（年1回）。広報誌の郵送（年2回）（私大同窓会・芸術系）
- 卒業生に対して、地方単位（東京、名古屋、広島、大阪）、職域（例えば関西私鉄5社）などの同窓会総会に、出来る限り学長などが出席し大学の様子を伝えることで、大学サポーターである卒業生との関係維持、連携強化に努めている。また、社会で成果を挙げている卒業生を講師に迎えた懇話会を実施することで、卒業生が本学を卒業した誇りを醸成できるよう努めている（公立大同窓会）
- 卒業生と在学生との交流会（公立大同窓会）
- 特に母校を離れ、全国で活躍している同窓生の絆を強めるためにブロック別の懇親会を実施。（しかし、参加者が増えないのが悩み）（公立大同窓会・工業系）

【式典・儀式、周年事業】

- 学園の高校卒業生を対象とした「成人の日茶話会」の開催。学園全卒業生を対象とした「喜寿・古希・還暦祝い礼拝」の開催（私大同窓会）

- キリスト教教育の観点より、当会役員や同窓生が招かれ、説教や奨励を行います。その他、卒・入学式、HCD、学行事（学校祭）などに積極的に参加し、卒業生と在學生との交流に務めることにより、絆を深める一助となるよう企画しています（私大同窓会・女子大学）
- 平成 27 年度に創基 200 周年記念事業として、記念式典の開催、募金を行い基金の創設、シンボルマークの制定、記念碑の設置、基幹シンポジウムの開催、フォトコンテストの実施、記念誌の発行、200 周年企画展示等を行い、「建学の精神継承」、「大学・学園に対する愛着形成」、「母校構成員としての意識向上」を図った（大学として実施）（国大同窓会）

【同窓会・ホームカミングデー】

- 大学の周年行事と同窓会ホームカミングデーを同日開催し、大学の記念イベントに同窓生も参加。海外支部での留学現役学生との交流会を実施（私大同窓会）
- ホームカミングデーの開催、会報誌・ホームページにて大学・現役生のニュースを紹介（私大同窓会）
- 年 1 回、同窓会イベント「ホームカミングディ」を開催し、大学に対する愛着形成を行っている。卒業生の活躍を称える賞の新設を検討しており、母校構成員としての意識向上を目的とする（私大同窓会・芸術系）

【情報発信・会報等の発行】

- 全同窓会員（住所判明者のみ）約 8 万人に対し、毎年無料で同窓会報（冊子）を郵送（私大同窓会）
- 校友会支援講座（特に「早稲田を知る」、「早稲田スポーツを学ぶ」）。在學生へのメールによるお知らせ、会報誌のサンプル・早稲田学報（会報誌）の送付（私大同窓会）
- 年 1 回会報を発行し、大学の取組をお知らせしている（国大同窓会）
- 同窓会会報を発行し（1 年半ごと）、母校の様子や卒業生の様子、イベント等を紹介（私大同窓会）
- 「武蔵な日本地図」（小冊子）を作成配布。全国の同窓生が経営する会社やお店を紹介。HP でも掲載。「武蔵な人（活躍する同窓生）」や恩師の情報、地方支部、各部会の行事予定、報告を HP に掲載（私大同窓会）
- 同窓会情報、学園情報の発信。同窓会報誌（年 1 回発行）に学園の情報を掲載して会員へ配布。また、学園誌（年 2 回発行）に同窓会のページがあり、同窓会の情報を卒業生・在學生・保護者宛に学園より配布（私大同窓会・女子大学）
- 大学案内や広報誌、大学院への入学案内書等を定期に送付。年 1 回開催される同窓会総会案内や会報を送付。大学院同窓会では、教育研究活動で活躍されている修了生に対し、表彰制度がある（国大同窓会・教育系）
- 同窓会独自の Facebook を立ち上げた。週 2 回の更新とし、大学での出来事、近隣行事など大学生活を振り返ることができる構成とし、全国の卒業生にリアルタイムで情報発信（私大同窓会）
- Facebook、Twitter 等の SNS における情報発信（在学時の記憶を想起させる情報）（国大同窓会）

【事業の開催・企画】

- 平成 28 年度において「校友会設立 10 周年記念事業」を実施した。そのうち主なものは①卒業生による記念講演会の開催②校友会のシンボルネーム又は愛称の募集③校友会会員「卒業同窓生の集い」への支援④「山形大学関西セミナー」の記念開催（国大同窓会）
- 同窓会全体あるいは各学科ごとの研修会・講演会及び親睦会を実施（公立大同窓会・医療福祉系）

- 支部総会の他、ゴルフ大会・旅行会など開催。また、駅伝などの応援体制の充実等（私大同窓会）
- ①毎年会報を発行（2万5千部）全国へ ②毎年セミナー開催 ③毎年総会・懇親会 ④全国47都道府県＋韓国支部の支部長が年に1回集まる評議員会を開催（私大同窓会・女子大学技能系）
- (1)毎年、講演会・夕食会を開催（年1回）(2)大学内の全同窓会の代表（会長、幹事長）による会議、交流会の開催を計画（年1回程度、H29年度より実施予定）(3)大学の国際交流貢献顕彰の対象となる候補者（海外支部会員）を推薦（年1回）（国大同窓会）
- 年1回、卒業生、修了生と学長との懇談会を大学と共催で実施。全国校友大会の開催。広報誌・会報誌の発行（私大同窓会）
- ニュースレターの発行、講座の開催（講師：本学教員）、卒業生交流会（全国数カ所にて開催）（私大同窓会・女子大学）
- 卒業後も大学との関わりが続くように、教員・卒業生が参加するイベント・ツアーなどを開催（私大同窓会）
- アート&デザインの開催。「サロン」のホームカミングデー出店（私大同窓会・芸術系）

【建学の精神継承・建学者の顕彰】

- 支部主催による「大学発祥の地・記念碑祭」にて講演を行っている（私大同窓会）
- 顕彰碑建立、学園創始者の研究会・発表会、学祖を知るための冊子作成・配布、入学式・卒業式出席、子育て支援（私大同窓会・女子大学）
- 教育方針を記載した石碑の寄贈、他、教育方針の意を伝えていく（私大同窓会・工業系）
- 我が母校はキリスト教が母体であり、同窓会の組織の中でも「敬神・愛人・自修」の建学の精神を継承し、定期総会他のイベントには、必ず礼拝を持ち、心穏やかな時間を共有しています（私大同窓会）
- ケンブリッジ・ヒューズホール研修（第二代学長留学先）（私大同窓会・女子大学）
- 学園創設者の旧居を記念館とし、遺作や写真の展示、建学の精神を継承につながる印刷物を作成・配布（私大同窓会）
- 学祖顕彰事業（私大同窓会）
- 建学の精神を、OB会活動では必ず話をしています（私大同窓会・工業系）
- 本学の源流となる前身校の設置に中心的役割を果たした「人物」の銅像を各学部の卒業生に呼びかけ、全額寄付により銅像をキャンパス内に建立し、本学の誇り・象徴として顕彰を行うとともに、建学者の志・進取の精神を在學生に伝えていくための活動（国際ビジネス講座、海外留学支援等）を計画中（公立大同窓会）
- 冊子の作成（創始者・学院のあゆみをまとめたもの、創始者の言行録など）。冊子は入學生に配布（私大同窓会・女子大学）
- 同窓会周年事業等において、大学や同窓会の歴史展示コーナーを設置し、創始者を紹介している。同窓会グッズ、新入生歓迎オリジナルクリアファイル等において「建学の精神」を掲載して配布している。同窓会活動のミッションにおいて、「建学の精神」を掲げている（私大同窓会・医療福祉系）
- 同窓会主催の講演会等で建学の精神継承につながる演者、テーマの選定。懇親会を開催し、卒業生と在學生とのつながりをもたせ、本学への愛を語りあい浸透していくようにしている（公立大同窓会・医療福祉系）

【贈呈・寄付・後援】

- 学園創立 110 周年を記念して記念碑と学園の年表パネルを大学に寄贈、設置 (私大同窓会・女子大学)
- 入学奨励金の支給 (会員子女の入学に際して祝い金の贈呈) (私大同窓会)
- 卒業生の実践語録集の作成・配付 (私大同窓会)

【卒業教育、研修、研究会】

- 一部の学部であるが、卒業教育の一環として年 2 回のリハビリテーション研究会を実施している。教員も参加するため、結果的に母校に対する愛着形成に繋がっていると考え (私大同窓会)
- 卒業教育としての公開講座 (同窓会主催のもの、一般対象有料講座を卒業生割引) 年間 10 講座ぐらい開催。10 名以上の仲間うちで集まる同窓会に補助金、案内状の発送代行など (同窓会開催後に実施レポートをブログに掲載することが条件) (私大同窓会)
- 同窓生と一般外部者を対象にした講習会の実施。この時同窓生は受講料を一部割引 (私大同窓会)

【自校教育、スポーツ応援、課外活動の支援】

- キャンパス内には、図書館と併設の「宮本輝ミュージアム」があり、宮本氏の著書、原稿等を展示しています。また、校友会の資金により「將軍山会館 (校友会館)」を建設し、大学や学院の歴史展示を行っています。(私大同窓会)
- (大学の歴史や建学者に関する) 本・冊子を作り、入学者へ配布している。初学年の導入教育において、1～2 コマで講義している (国大同窓会)
- 在学生のスポーツ・文化活動への支援・応援・・・同窓会グッズ無料配布。同窓会支部主催・共催の吹奏楽コンサートへの支援金、大学応援団への年間活動費支援 (私大同窓会)

【同窓会・校友会の案内】

- 入学時、全学科新入生全員に資料を配布し同窓会の歴史、事業等について説明し入会の案内をしている (公立大同窓会・医療福祉系)
- 卒業時に同窓会の説明会を行い、卒業後の学園行事へ積極的な参加をお願いする (私大同窓会)

■上記の「校友育成に資する事業」として「2) 実施を計画している」との回答があったうち、その補足説明の内容を領域ごとに区分して以下に紹介する。

- 同窓会のネットワークをより結びつけていく施策を計画中。個別のゼミ・クラブ単位から企業内・エリア別などの単位での組織づくりを計画しています (私大同窓会)
- 2017 年度より卒業生を対象とした合唱団や吹奏楽団を組織し、大学施設を拠点として活動を開始する (私大同窓会・芸術系)
- 発足後、1 年に満たない為、現在各委員会を設置して、種々検討している (国大同窓会)
- 本学の評議員および理事は卒業生の選挙より選ぶことから、卒業をしても大学を構成する一員であることを今後一層告知していく予定 (私大同窓会・医歯薬系)
- 同窓会館ロビーに「大学のあゆみ」をパネルにより、常設展示する (公立大同窓会)
- 大学 70 周年事業への参画など (公立大同窓会)
- 開学 30 周年記念行事を開催予定 (私大同窓会)
- 卒業研修会。卒業後、社会人 1 年目の卒業生にアンケート送付 (私大同窓会)

■上記の「校友育成に資する事業」として「3) 実施を検討している」との回答があったうち、その補足説明の内容を領域ごとに区分して以下に紹介する。

- 同窓会エンブレムや同窓会旗の作製（国大同窓会・教育系）
- 私共の同窓会は、県立三大学統合時に、三つの同窓会が統合して発足しました（翌年、前身校の同窓会も統合したので四つの同窓会が統合したことになります）。2020年の開学100周年に向けて、各大学及びその同窓会の沿革等を整理する予定（どのような形で残すかについては未定）（公立大同窓会）
- 組織力が弱くなりつつあることを認識しています（若い方々（20～40代）の帰属意識が薄れている？）。同窓会から会員への発信を試みています（私大同窓会・女子大学）
- 現状では卒業後30年くらいから大学卒業生としての意識が向上しているが、在学中から、また卒業後年が浅いうちから、意識を持てるような企画を計画しています。具体案にまでは至っていませんが、生涯の人的ネットワークがよりよい人生のためにとっても価値のあるものと実感できるような、異世代、異業種交流などを思い描いています（私大同窓会・女子大学技能系）

■上記の「校友育成に資する事業」として「5) その他」との回答があったうち、その補足説明の内容を領域ごとに区分して以下に紹介する。

- 創立記念事業に創設者の生家訪問と墓参りの日帰りバスツアーを実施。戦後70年企画として、戦争を体験した卒業生を講師に迎え、一般市民も含めた公開講座を実施。学生にアシスタントを担当してもらった（私大同窓会）
- 一部実施始めたばかり。特に在学生在が母校のブランドカアップ、母校出身のブランドアップのため学生幹事会を立ち上げ、「学生の学生による学生のための校友会活動」を目指しています（国大同窓会）
- 隔年開催のホームカミングデー等を通してOBと在校生との交流を図り、母校への愛着心の向上を図っている（国大同窓会）

■まとめ（知見・考察）

- 「校友育成事業」として、卒業生と在在学生との交流の機会設定に配慮する組織が多い。この事業により、卒業生と大学との関係維持や連携強化を図り、そこから母校への愛着や帰属意識を高め、これを在在学生支援に結びつける契機にしようとする記述もある。また、卒業生と学生の交流による相互認識から、母校発展、校友意識形成、在在学生への支援への発展を期待する記述もある。
- 入学式や卒業式、開学記念日などの式典や周年事業、ホームカミングデーや学園祭など行事を卒業生と在在学生との交流機会として、参画・支援・協力する卒業生組織も多い。
- 卒業生に母校への後援や在在学生支援を認識してもらうには、大学情報や卒業生組織の情報を継続的に情報提供することが重要と判断し、これに努力する組織も多い。しかし、大学情報や卒業生組織の提供にあたっては、卒業生の所在把握、経費、スタッフの確保など、課題も山積している。
- 大学や学園の「建学の精神」や「大学理念」について、卒業生組織は重要な役割を果たしており、様々な取組が展開されている。この取組を、自らの重要なミッションに位置づける組織もある。
- 研修の開催や、国家試験支援など、在在学生のみならず、卒業後の「同窓生・校友」の資質向上に努力する組織も見受けられる。在在学生支援を含めた「後輩支援」を伝統とする卒業生組織もある。

設問 「母校の愛着や支援意欲を有する校友育成につながる事業」について

前掲「Ⅱ 在学生支援に関わる事業の実施状況について」の設問全般で提示する取組のうち、母校への愛着や後援意欲を有する「校友」の育成に繋がると思われる項目があれば、貴会の実施有無にかかわらず、ご記入ください。いくつでも結構です。貴会ご提案も歓迎します。

■回答結果

自由記述への回答数は 71 回答（回答率 28.4%）であった。これら記載について、テキスト分析を試みると、「卒業生（20）」、「在学生（13）」、「大学（10）」、「ホームカミングデー（8）」、「同窓会（7）」、「母校（5）」、「学園祭（5）」、「支援（5）」、「交流会（4）」などの語彙が頻出上位に並んだ。

【（）内は該当語彙の記載組織数】

上記の頻出語彙やそれに関わる領域ごとに区分し、本設問の自由記述回答を抜粋して紹介する。

【卒業生・校友】

- 校友の特技を発揮し、学生に手ほどきする場を設ける（私大同窓会・女子大学）
- 行事には、80歳以上の方も多く参加いただき、若い人より母校への愛着が深く、強いと感じる（私大同窓会）
- 会報発行年2回（インタビュー、校友・支部活動状況、大学インフォなど）、校友発掘キャラバン（卒業生による卒業生の取材と学生へのメッセージ）（私大同窓会・芸術系）
- 卒業式の前日に、その期の新幹事を同窓会会議室に来てもらい、新幹事歓迎会を開催。会長・副会長6名と新幹事10名程で飲食しながら（昼食）意見交換している。（私大同窓会）

【同窓会・校友会】

- 校友会の認知度を上げること（奨学金や支援講座の母校支援状況など）（私大同窓会）
- 卒業生、修了生毎に年一回の総会を実施している（国大同窓会）
- 従来は卒業生同士の親睦中心の同窓会活動を昨今の大学を取り巻く環境変化に対応し、大学・在学生支援をより強力に推進していくためには、同窓生・同窓会をその方向に向かわせる意識改革が必要。そのためには、同窓会組織のより活性化が必要で、より効果的な方向は、より小さな組織の同窓会組織（地域、年次別、クラブ別）を再活性化・新設を行い、本部組織が支援していくことが必要（公立大同窓会）
- 同窓会支部による卒業生間連絡網、同期会の同窓会会報掲載、在校生の活躍を同窓会会報に掲載（国大同窓会）
- 同窓会総会、懇親会の参加・実施、各支部での支部総会など（公立大同窓会）

【支援・援助・奨学】

- 卒後起業したり、プロになったり、社会貢献している卒業生を会として積極的に支援していく（私大同窓会）
- 熊本大学次世代支援事業（熊本大学古本募金）を実施し、学生のための教育活動資金としている（大学が実施）（国大同窓会）
- 女子大であるので、本来なら資金面や企業へのバックアップしてあげて、女性の社会進出をもっと盛

り上げていきたいとは願っています（私大同窓会・女子大学）

- キャリア教育科目への講師派遣、学会等参加費の援助、海外渡航費の援助、奨学金支援（国大同窓会）
- 災害等で被災した会員への援助（私大同窓会）
- 奨学金支援（私大同窓会）
- 寄付・財政援助事業（私大同窓会）

【交流】

- ホームカミングデーや初年次教育で入学当初から在學生と卒業生の結びつきをもてるようにしている（私大同窓会）
- ①OB&OG セミナーを開催（年1回）②「卒業生等首都圏ネットワーク」総会及び講演会を開催（年1回）③各学部同窓会と校友会の共催で「卒業生講演会」を開催（年1回）④首都圏の若手卒業生の会（同窓会）を開催（年1回）（国大同窓会）
- 校友との接点を増やすこと（先輩と語ろう！）（私大同窓会）
- 卒業生と在學生の交流会（私大同窓会・女子大学）
- 校友会による「奨学支援事業」については、ただ単に奨学金を給付するだけでなく、奨学生同士の横の繋がりや、奨学金を受けていた校友と現役学生との繋がりを創出していく必要があると思料いたします。（私大同窓会）
- 卒業生と在學生の交流会、大学施設の開放、ホームカミングデー開催、学園祭への参画（私大同窓会・芸術系）
- 学部 OB との茶話会（国大同窓会）

【事業】

- 講演会・研究会の開催（特に強調していきたい事業）（私大同窓会）
- クレジットカードの発行を検討中（国大同窓会・工業系）
- 大学カード（クレジットカード）の発行を通し、母校への意識の醸成を図る（国大同窓会）
- 在學生の退学者防止に大学側と連携し、母校愛（大学の楽しみ方）等を学べるイベント・課外学習等の実施を検討（私大同窓会）
- 学生の取組でしたが、大学の好きなどアンケートを実施・報告したことがあった。いろいろな思いが出てきて楽しかったし、共感も広がった（国大同窓会・教育系）

【ホームカミングデー・学園祭】

- ホームカミングデーを、総会開催を除く年に主催して、卒業生が毎年母校を訪れる機会を提供して、変化していく大学施設の状況や、先生方（特に学長）から教育方針の転換点の説明により大学の変化を直接肌を感じるにより、一層の愛着と帰属意識の高まりに寄与しています（公立大同窓会）
- H28年度の校友会総会とホームカミングデーの企画・立案・当日のスタッフ等を本学卒業生である教職員が構成員であるワーキンググループを立ち上げて行った（国大同窓会）
- ホームカミングデーの開催、学園祭への参画（公立大同窓会）
- オープンキャンパス後にホームカミングデーを実施（私大同窓会）
- 学園祭への企画参加（私大同窓会）（国大同窓会）

【キャリア・就職支援】

- ホームカミングデーを、総会開催を除く年に主催して、卒業生が毎年母校を訪れる機会を提供して、変化していく大学施設の状況や、先生方（特に学長）から教育方針の転換点の説明により大学の変化

を直接肌を感じるにより、一層の愛着と帰属意識の高まりに寄与しています（公立大同窓会）

- H28年度の校友会総会とホームカミングデーの企画・立案・当日のスタッフ等を本学卒業生である教職員が構成員であるワーキンググループを立ち上げて行った（国大同窓会就活フェアの開催、学生ボランティア支援事業（私大同窓会）
- 卒業生によるキャリア教育、業界・企業説明、就職指導（国大同窓会・工業系）

【寄付・寄贈・贈呈、表彰】

- 卒業記念品の贈呈（国大同窓会）
- スポーツ優秀者（オリンピック出場等）や国際試合出場者にお祝い金（私大同窓会・女子大学技能系）
- 成績優秀者への表彰（国大同窓会）

【応援】

- 部・サークル活動の大会出場への応援（私大同窓会）
- 全国規模の大会に関わる応援（国大同窓会）
- 在学生・卒業生問わず本学関係者が出場する国内外大会の応援（国大同窓会）
- 全国規模の大会に出場する母校学生の応援、クラブ活動への経済的支援、同窓会奨学金（私大同窓会）

【自校教育・建学の精神・大学の歴史】

- カリキュラムの中に学園の歴史を学ぶ講座を取り入れる。講義の中で卒業生を講師として登壇してもらう企画・機会を増やす（私大同窓会）
- OBが昔はこうだったなど学生に押しつけるようなことはしていないが、やはり大学を知らなければ、行動は産まれない。大学の歴史ものがたりをつくってはと思う。アニメでも（私大同窓会）
- 礼拝説教（私大同窓会・女子大学）

【地方・地域・支部】

- 在学生の出身県人会を目論むも、学生の地元意識が低く伸び悩んでいる。この県人会をもとに同窓活動に繋がりたいと挑戦継続している（私大同窓会）
- 次年度から、新入生への県人会（もしくは東北や九州地区といったブロック）を開催予定（私大同窓会・工業系）
- 地方出身学生と各地方に在住する校友との繋がりを創出することも有意（私大同窓会）

【同窓会会館】

- 同窓会会館の設立（国大同窓会）
- 大学・同窓会施設の開放（私大同窓会・芸術系）
- 同窓会館の開放・・・学校祭の時無料休憩所として開放しています（お茶・ジュースサービス、織紙）（私大同窓会・女子大学）

【校歌・寮歌・応援歌、大学グッズ】

- 大学で古くから歌われている寮歌のCD化、HPへのアップ（国大同窓会）
- 校章グッズ（私大同窓会・女子大学）
- オリジナルグッズの製作、販売（国大同窓会）

【周知】

- 同窓会会報を全在学生に配布、入学時に同窓会についての説明を行う、卒業時に入会にあたっての説明を行う（公立大同窓会）
- 入会式の開催（同窓会組織、役割などの説明）（私大同窓会）

【課題】

- 創立 20 周年を迎える公立大学としては、同窓会役員がまさに働き盛り。仕事に集中するべき年齢で同窓会の活性化については十分な労力を注ぎきれていないのが実情です（公立大同窓会）
- 小規模大学であるのと、同窓会費が任意であることから、母校に向けての支援と、同窓生への親睦行事（通信も含む）を、それぞれ充実させて行くことは実際大変である。しかし、現学生さん達に、よりよい学習・研究をしてもらうことへの支援は、少しでも実行に向けたたい（私大同窓会）
- 会費の安定した徴収。各大学の調査をしたこともあるが、徴収方法はそれぞれ異なる。会費は主要な活動資源となるため、この課題は重要である（私大同窓会）
- 大学の属性が海外部門（マスコミ、大手商社）で働く人が多く、転勤と多忙で母校への思いは忘れてしまう。現在、卒業生の 1 / 3 しか会員（会費を払っている）でなく、平成卒の組織率は低い。特に、最近女子学生が増え（約 70%前後）、主婦になると多忙で常時の同窓会活動、母校支援にどのくらい参加してもらえるか？疑問もある（国大同窓会）

■まとめ（知見・考察）

- 母校や卒業生組織の発展を担う卒業生（同窓生・校友）を育成する上で有効な事業として、「卒業生との交流」、「卒業生組織（同窓会等）の存在周知」、「母校行事への参加協力（ホームカミングデーや学園祭）」、「卒業生への継続的な働きかけや支援」などが回答される。
- 「校友意識」や「帰属意識」の形成・継続には、学生在学時からの働きかけが重要とする組織が多い。卒業生組織として出来ることには限界があるものの、大学側と協力しながら、「卒業生との交流（在學生に卒業生の姿を見せること）機会設定」に努力していることが報告される。
- 「校友育成事業」として、奨学支援はもちろん重要であるが、奨学金を給付するだけでなく、これを契機として、奨学生同士の横の繋がりや、奨学金を受けていた校友と現役学生との繋がりやの創出、卒業生組織の存在周知なども必要であることの指摘もあがる。
- 母校への帰属意識や愛着の形成、卒業生同士、さらには在學生と卒業生が一体化する上で、スポーツ等の「応援（支援）」は重要な機会とする記載も多い。学園祭やホームカミングデーでの共催・参画も同様。
- 卒業生組織が関わることのできる「校友育成」に繋がる学生支援として、キャリア・就職支援や自校教育の共催を工夫する組織もある。ただし、学修支援全般については、大学側との連携が重要と考えられている。卒業生組織によるキャリア支援や学修支援にあたっては、その安定的な実施（人材確保や日程・財源など）も懸念材料となっている。
- 「校友育成」に向けた取組として、現役学生のみならず、卒業生への支援（起業、芸術活動、資格取得などに取り組む若い卒業生）も行われている。
- 卒業生組織としては、地方支部や県人会などの体制整備、支援、強化などを進め、また地方支部を通じた卒業生同士、卒業生と現役学生との人脈形成が重要であり、組織としても可能な事業。
- 「在學生支援」は、卒業生組織にとっても今後の重要課題であるという認識も進んでいる。しかし、これまで「親睦中心だった事業」を「学生支援」にも目を向けてもらうには組織（会員）の意識改革も必要とする回答もあった。

3. 4 設問「Ⅳ 大学や貴会の発展に向けた取組について」

これまでの設問内容以外で、大学や貴会の発展に向けて積極的に取り組んでいること、貴会ならではの特色ある取組など、よろしければご随意に記載下さい。組織運営や事業実施上での課題でも結構です。事業項目の提示だけでも構いません。（例：地方支部体制の強化。女子部会の設置。学部同窓会との連携が課題。会員情報のデータベース化。留学生の入会促進。）

■回答結果

大学や組織の発展に向けた取組をたずねる本設問に対し、149 組織からの自由記述回答（回答率 60%）があった。全ての記述回答をテキスト分析したところ、10 組織以上で出現した語彙は以下である。

回答組織数	頻出語彙：（ ）内は回答組織数
24 以上	同窓会（28）、卒業生（26）、課題（26）、連携（24）、大学（24）
20～14	強化（17）、会員情報（15）、活動（15）、支部（15）、データベース化（14）、開催（14）
13～11	同窓生（13）、支援（12）、全国（11）、実施（11）、地方支部（11）
10	在学生（10）、校友会（10）、設置（10）、会員（10）

上記の頻出語彙をもとにそれに関わる領域ごとに区分し、本設問の自由記述回答を抜粋して紹介する。

【同窓会・校友会】

- 学部同窓会はそれぞれ歴史を持っている「タテ」の組織であり、校友会は学部の壁を越えた「ヨコ」の関係を重視しています。タテヨコの連携を課題にあげ、校友会・同窓会・会長会定期開催をし、円滑化を目指しています（国大同窓会）
- 地方支部の体制強化（既存の活性化、より小さな支部新設）の他、若い卒業生（本学では平成卒が 50% を越えた。女性も約 40%）を組織化すべく、平成会や女性部会創設を推進中。大学の課題等を共有化してもらうため、ホームカミングデーの地方開催（出前ホームカミングデー）も検討中。また、地方の保護者は大阪まで来られないので地方支部総会に保護者を招待するなど取組中（公立大同窓会）

【卒業生・校友・同窓生】

- 後援会と同窓会を統合し、校友会設立の準備に取り掛かったところ。これにより在学生、卒業生への支援を全学的にできるようにしたいと考えております（公立大同窓会・工業系）
- 50 代までの OB と 40 代以降の OB の接点がなく、大学への母校愛も薄弱になっているので、ギャップを埋めることを念頭において活動している（私大同窓会）
- 同窓生派遣講師制度：音楽・スポーツ・芸能などで活躍している同窓生を派遣講師に認定し、全国の同窓会活動に送り出している。本部が旅費・交通費・講演料を負担（私大同窓会）

【支部、地方・地域】

- 法人化、女子部会、技術士会、留学生の国際支部、全国支部の強化と連携、他大学同窓会との連携（国大同窓会・工業系）
- 地方支会の活性化→会費納入者の増加→会員への還元増加→同窓会の発展（国大同窓会・教育系）
- 国内外 154 の支部があります。本部（東京）企画は、開催地が東京に集中してしまうので、地方支部企画の講演会に大学の講師を派遣する事業を実施しています。支部活性化のために企画の公募をし、審査に通ったところに企画経費の一部を本部が負担するしくみを検討中です（私大同窓会・女子大学）

- 学部同窓会との連携、地方支部体制の構築が課題です（国大同窓会）
- 支部の設立、卒業生の多い地方でのサテライト同窓会の開催（公立大同窓会・医療系）
- 支部活動支援の強化・充実、支部活動報告書の提出等、条件をクリアした支部に各種活動費の補助を実施。全国の地域をブロック単位、又は卒業年次や職域別の支部を対象に同窓会ミーティングを年数回開催。各支部間の連携を密にし、現状の課題（特に支部会員の高齢化、若手及び女性会員の支部活動への参加促進等）を共有することにより、学员ネットワークの拡充・強化に繋げる（私大同窓会）

【事業】

- キャンパス・ウェディング（学内チャペルでの挙式、収益は学院に寄付）を実施している。結婚支援事業を収益事業として行っている。卒業生の合同追悼会（年1回）を開催（私大同窓会・女子大学）
- 本部及び全国 35 支部の他、音楽療法部会、教職部会、アートマネジメント部会、ミュージカル部会を設置し、各分野での講座やワークショップ、講演会等を実施（私大同窓会・芸術系）

【連携】

- 校友会組織（卒業生、旧在職者、在学生、保護者、教職員）の設置に向けて、各学部同窓会・各学部後援会との連携・協力が課題（国大同窓会）
- 大学基金設立への関与、支部活動への援助・連携、学部学科同窓会との連携などを実施（国大同窓会）
- 大学と支部との連携強化、大学主催で行う地方公開講座に際し、同窓会支部が集客等で協力するなど、大学と同窓会支部とが連携を図っている。同窓会支部総会における講演講師として、支部からの依頼で、大学を通じて本学教員を講師として派遣（私大同窓会）
- 会員情報のデータベース化のためにも学部同窓会との連携が課題（国大同窓会）

【会員情報】

- 同窓会では大学と協力し、引越しや結婚等による約3万人（同窓会員）に及ぶ住所不明者の住所把握が課題。現在、住所変更届は大学のホームページから行えるようにしているが、卒業生とのコミュニケーション・ツールとしてのメールアドレスの登録を推進（私大同窓会）
- 同窓生による集う機会への対応。離れ離れになっている者同志が一つに集合するには名簿の管理が重要で、この正確な情報を提供することにより、同窓会事務局の信頼を得ることになる。そのためには積み重ねの名簿管理が責務であり重要である（私大同窓会）
- 個人情報保護の問題があり、会員情報のデータベース化は無理。入学手続き者の名簿を大学との契約で入手するが、1年でその全てを破棄しなければならない。各学部では、入学後に改めて学生の許可のもと情報を長く残すことができる（国大同窓会）

【強化】

- 同窓生中心の活動が主でしたが、今後は就職支援・経済的に困難な学生への支援等、在学生への細やかな支援をすることを視野に入れたい。それにより愛校心が育まれていけば、と考える（私大同窓会）
- クレジットカード事業による財政基盤の強化、支部（国内3支部、海外15支部）との連携＝支部活動費の支援（海外、国内）など（国大同窓会）
- 地方支部の立ち上げを検討。学生数減少に伴う新規会員数の減少への対策。後援事業の周知と強化。後援事業の周知と強化（私大同窓会・芸術系）

【女性会員・部会】

- 各支部に女性部会設置を呼びかけ、別途支援（私大同窓会）
- 従前より女子の比率が高く「ウィメンズくらぶ」の名で女子部会の活動が今年度で20周年を迎えました（公立大同窓会）

- 同窓女医の会を毎年開催（私大同窓会・医歯薬系）
- 若いOB・OG、女子の参加が課題、支部会員の高齢化（公立大同窓会）

【課題】

- 第1期生が40歳になる年齢とまだ若いため、同窓会活動自体があまり活性化されていない。総会を年1回開催しているが、ほとんど出席がないのが課題です（私大同窓会）
- 近年はSNS等での繋がりがあることを理由に入会されない方が増えてきている。そのような方々をどのように少なくできるかが課題。大学側との関係も、敵対する目的で同窓会が存在するものではないことは明らかだが、大学側の同窓会に対する「非協力的な」態度を改めていただかない限り、進展は難しいのではないかと感じている（私大同窓会）
- 海外同窓会の設立・活動支援及び連携強化（国大同窓会）
- 役員の中でも同窓会はボランティアという意識が高く、事務局の人件費を確保してもらえない。また、役員の年齢層が高く、集会も若手を集める企画がたてづらい。大学に経営戦略の1つとして同窓会を視野に入れてもらい、専属の専門職員を配置してほしいと要望しているが進展しない。卒業生は母校発展のために大きなカタリストとしての役割があり、大学の看板を背負うものとして頼りにしているということを大学側から発信してもらう必要がある。大学と共に取り組まないと、同窓会としての目的は達成できない。国公私合同の同窓会連合会みたいな組織が欲しい（私大同窓会）
- 小規模の大学で地元の入学生の割合が低く、全国から学生が集まる現状ですが、地方支部の設置を検討しても、実際の活動する中心となる卒業生を見つけられず、課題となっています。古都奈良で学んだ意義を共有して、卒業後も連携を深めたいと思っています（公立大同窓会）
- 今後の主たる課題といたしましては、次の様な事柄があげられます。「校友の校友会に対する関心度の更なる向上」「国内外における支部活動の更なる活性化」「大学との更なる連携」（私大同窓会）
- 会員情報のデータベース化を実施しているが、卒業生の会員情報登録者が少ないこと。学部同窓会との会員情報が共有できていないこと。国内支部が首都圏と近畿にしかなく、少ないこと（国大同窓会）
- 留学生の居住先調査が大きな課題となっている（私大同窓会）
- 各学部同窓会が各々活動している現状があり、その活動にも同窓会間で格差がある。同窓会連合会が中心となり、大学の同窓会全体を組織化し、統一された運営と各学部同窓会との連携強化を目指すことが検討され始めた。しかしながら、各学部同窓会の歴史や現状、活動内容のバラツキ等がある中で、まとめていくことは、時間を要するものと思われる（国大同窓会）
- 若い会員の関心が低い（関心が無い）（私大同窓会・女子大学）

■まとめ（知見・考察）

- 卒業生組織の活性化に向けて、地方支部体制の確立や支援を重要施策に位置づける組織が多い。
- 若年層や女性の参加（興味喚起）に努力する組織も多い。組織の中心となる会員の高齢化もあわせ、これら会員の関心の低さは多くの組織が重要課題としてあがる。
- 大学との連携、学部同窓会との連携、卒業生世代間の連携も組織活性化に向けた重要課題。
- 情報発信は組織活性化のための大切な手段ではあるが、会員情報の把握は個人情報保護の側面からも難しい課題となっている。生涯メールアドレスの付与やホームページ、クレジットカードの発行など、会員情報把握の工夫も進むが、それらにも限界がある。
- 会員親睦中心から、母校・学生支援も卒業生組織活動の視野に入ってきた。

○アンケート調査にご協力いただきました全学卒業生組織（同窓会・校友会等）さま（250 団体）

（以下掲載は文教協会編「全国大学一覧」の大学番号順）

国立大学同窓会・校友会（48 団体）

北海道大学校友会エルム、室蘭工業大学同窓会、帯広畜産大学同窓会、弘前大学同窓会、岩手大学同窓会連合会、秋田大学全学同窓会、山形大学校友会、茨城大学全学同窓会連合会、千葉大学校友会、東京大学校友会、一般社団法人東京外語会、一般社団法人東京学芸大学同窓会、東京農工大学同窓会、一般社団法人蔵前工業会、横浜国立大学校友会、新潟大学全学同窓会、富山大学同窓会連合会、金沢大学学友会、山梨大学全学同窓会、信州大学同窓会連合会、名古屋大学全学同窓会、豊橋技術科学大学同窓会、滋賀医科大学同窓会「湖医会」、京都教育大学同窓会、京都工芸繊維大学同窓会（KIT 同窓会）、大阪教育大学同窓会「天遊会」、兵庫教育大学大学院同窓会・学部同窓会、神戸大学学友会、奈良教育大学同窓会、一般社団法人佐保会、鳥取大学学友会、島根大学同窓会連合会、岡山大学 Alumni（全学同窓会）、広島大学同窓会、山口大学同窓会、徳島大学同窓会連合会、鳴門教育大学同窓会、香川大学同窓会連合会、愛媛大学校友会、高知大学同窓会連合会、九州大学同窓会連合会、一般社団法人明専会、佐賀大学同窓会、熊本大学同窓会連合会、宮崎大学同窓会連合会、鹿屋体育大学同窓会、琉球大学同窓会、奈良先端科学技術大学院大学同窓会

公立大学同窓会・校友会（35 団体）

釧路公立大学同窓会、青森県立保健大学同窓会、岩手県立大学同窓会「素心知困の会」、山形県立保健医療大学同窓会、高崎経済大学同窓会、前橋工科大学同窓会、首都大学東京同窓会、長岡造形大学校友会、新潟県立大学同窓会、石川県立看護大学同窓会「さくら会」、福井県立大学同窓会、都留文科大学同窓会、長野県看護大学「鈴風会」、岐阜県立看護大学同窓会、岐阜薬科大学同窓会、静岡文化芸術大学同窓会、滋賀県立大学同窓会「湖風会」、京都府立大学校友会、大阪市立大学全学同窓会、大阪府立大学校友会、神戸市外国語大学同窓会「楠ヶ丘会」、兵庫県立大学学友会、奈良県立大学同窓会、岡山県立大学同窓会、新見公立大学・短期大学同窓会、県立広島大学同窓会、下関市立大学同窓会、山口県立大学同窓会「桜圃会」、香川県立保健医療大学同窓会、高知工科大学同窓会、北九州市立大学同窓会、熊本県立大学同窓会「紫苑会」、大分県立看護科学大学同窓会「四つ葉会」、宮崎県立看護大学同窓会、宮崎公立大学同窓会「凌雲なな会」

私立大学（学園）同窓会・校友会（167 団体）

一般社団法人札幌大学校友会、天使大学同窓会、道都大学同窓会、日本赤十字北海道看護大学同窓会、北海商科大学同窓会「白亜会」、北海道文教大学同窓会「つるの会」、酪農学園大学同窓会校友会、稚内北星学園大学同窓会、青森大学同窓会、岩手医科大学同窓会「圭陵会」、富士大学同窓会、盛岡大学聖陵同窓会、東北福祉大学同窓会、宮城学院同窓会、いわき明星大学同窓会、宇都宮共和大学シティライフ学部同窓会、白鷗大学「鷗友会」、高崎健康福祉大学同窓会、埼玉工業大学同窓会、女子栄養大学香友会、文教大学学園校友会、植草学園さくら会（連合同窓会）、江戸川大学「駒木会」、淑徳大学同窓会、千葉工業大学同窓会、麗澤大学麗澤会、和洋女子大学同窓会「むら竹会」、桜美林大学同窓会、一般社法人大妻コタカ記念会、国立音楽大学「同調会」、こども教育宝仙大学同窓会「あかつき会」、駒澤大学同窓会、一般社団法人教育文化振興「実践桜会」、杉野服飾大学・杉野服飾大学短期大学部同窓会「すぎの会」、成城学園同窓会、聖路加同窓会、大正大学「鴨台会」、

大東文化大学同窓会、拓殖大学学友会、中央大学学員会、東京慈恵会医科大学同窓会、東京女子大学同窓会、東京農業大学校友会、一般社団法人東京薬科大学同窓会東薬会、二松学舎「松苓会」、日本大学校友会、日本医科大学同窓会、日本社会事業大学同窓会、一般社団法人日本女子大学教育文化振興「桜楓会」、日本女子体育大学「松徳会」、日本赤十字看護大学同窓会、武蔵大学同窓会、武蔵野大学同窓会「むらさき会」、武蔵野美術大学校友会、明治大学校友会、明星大学同窓会「明星会」、早稲田大学校友会、鎌倉女子大学「和敬会」、相模女子大学同窓会「翠葉会」、湘南工科大学同窓会、昭和音楽大学「同侪会」、田園調布学園大学「なでしこ同窓会」、八洲学園大学同窓会、新潟国際情報大学同窓会「みずき会」、高岡法科大学同窓会、金沢工業大学同窓会「こぶし会」、金城大学同窓会、福井工業大学同窓会、身延山学園同窓会、山梨英和短期大学・大学同窓会、佐久大学同窓会「秋桜会」、清泉女学院大学愛泉会、長野大学同窓会、松本歯科大学校友会、中部学院大学同窓会、東海学院大学同窓会、静岡理工科大学同窓会、浜松学院大学同窓会、愛知淑徳大学淑楓会、愛知東邦大学同窓会「邦友会」、金城学院「みどり野会」、至学館大学同窓会、修文大学同窓会「桃苑会」、星城大学同窓会、中京大学同窓会、東海学園大学同窓会、名古屋芸術大学同窓会、名古屋商科大学同窓会、名古屋女子大学同窓会「春光会」、南山大学同窓会、日本福祉大学同窓会、人間環境大学同窓会、名城大学校友会、鈴鹿医療科学大学同窓会、鈴鹿大学同窓会「鈴風会」、成安造形大学同窓会「かいつぶり」、びわこ学院大学同窓会、京都医療科学大学学友会、京都産業大学同窓会「神山会」、京都女子学園同窓会「藤陵会」、京都精華大学同窓会「木野会」、京都薬科大学京薬会、種智院大学同窓会、同志社校友会、同志社女子大学同窓会、平安女学院校友会、立命館大学校友会、追手門学院大学校友会、大阪青山大学同窓会「青山会」、大阪音楽大学同窓会「幸楽会」、大阪学院大学校友会、大阪河崎リハビリテーション大学「河泉会」、大阪芸術大学 塚本学院同窓会、大阪工業大学学園同窓会、大阪国際大学同窓会、大阪体育大学同窓会「摂泉会」、大阪物療大学校友会、関西大学校友会、関西医療学園校友会、関西外大同窓会、滋慶医療科学大学院大学同窓会「滋安会」、四條畷学園同窓会「若楠」、金蘭会学園同窓会「芳友会」、常磐会学園大学同窓会「清鐘会」、森ノ宮医療学園校友会、関西国際大学同窓会、甲南大学同窓会、甲南女子学園同窓会「清友会」、神戸医療福祉大学同窓会、公益社団法人神戸女学院めぐみ会、神戸女子大学同窓会「青山会」、神戸女子大学同窓会「すずらん会」、神戸薬科大学同窓会、園田学園女子大学同窓会、姫路獨協大学同窓会、兵庫大学同窓会「兵鸞会」、兵庫医療大学同窓会「海鼻会」、流通科学大学「有朋会」、畿央大学「畿桜会」、高野山大学同窓会、岡山理科大学同窓会「半田山会」、川崎医科大学同窓会、川崎医療福祉大学同窓会、就実大学同窓会、ノートルダム清心女子大学同窓会、比治山大学同窓会「楷の樹会」、広島工業大学同窓会、広島修道大学同窓会、安田女子学園「唐花会」、徳山大学校友会、梅光学院同窓会、高松大学・高松大学大学院同窓会、松山大学温山会、九州情報大学同窓会、久留米工業大学同窓会、聖マリア学院同窓会、筑紫女学園紫友会（大学・短期大学部同窓会）、一般社団法人「山河会」（中村学園大学同窓会）、一般社団法人福岡大学同窓会「有信会」、福岡歯科大学同窓会、福岡女学院同窓会、西九州大学同窓会、熊本保健科学大学同窓会連合、別府大学同窓会、九州保健福祉大学同窓会、鹿児島女子大学・志學館大学同窓会「銀杏会」、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学同窓会



本アンケート調査の実施、及び報告書の作成・発送は、
日本学術振興会「科研費 15K04340」の助成を受けています。

研究期間 2015～2017 年度

研究種目 基盤研究(C)

「大学の持続的発展に資する校友(大学・学生・卒業生)事業の意義と可能性に関する研究」

研究代表者:大川一毅 研究分担者: 嶋田敏行、大野賢一

今回送付いたしました報告書冊子は、2017 年 10 月以降に、電子ファイルとして下記 URL に掲載します。
併せてご活用ください。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/alumni/index.html>

(2017 年 9 月 11 日発行)

発行代表、並びに本報告書に関するご連絡・質問やお問合せ先

研究代表者 大川 一毅

〒020-8550 盛岡市上田 3-18-8 岩手大学 評価室
TEL : 019-621-6018 (大川直通) E-mail : kazuki55@iwate-u.ac.jp

